スズキ車をお買いあげいただきありがとうございます。

車は取扱いを誤ると事故や故障の原因となります。正しい取扱いをご理解いただくため運転する前に、必ず取扱説明書をお読みください。そして安全で快適なバイクライフをお楽しみください。
またメンテナンスノートもぜひお読みください。

- この取扱説明書には、お車の正しい取扱いかた、安全な運転のしかた、簡単な点検、整備の方法などについて説明してあります。
- **「必読！安全運転のために」**および次のシンボルマークで示したところは重要ですので、しっかりお読みください。

⚠警 告	取扱いを誤った場合、死亡または重大な傷害を生じる可能性がある危害の程度を示しています。
⚠注 意	取扱いを誤った場合、傷害を負う可能性がある危害の程度を示しています。
注 記	取扱いを誤った場合、物的損害の発生する危害の程度を示しています。
アドバイス	お車のために守っていただきたいこと、知っておくと便利なことを示しています。

お車受け取りの際は、お買いあげいただいたスズキ販売店より取扱説明書、メンテナンスノートを受け取り、下記の説明を受けてください。

◇ お車の正しい取扱い方法
◇ 日常点検、定期点検
◇ 保証内容と保証期間
◇ 保証書の発行 《保証書登録票の記入・捺印》

- お車を譲られるときは、次に所有される方のためにこの取扱説明書とメンテナンスノートをお渡しください。
- 仕様の変更などにより、この取扱説明書の内容とお車が一致しない場合があります。ご了承ください。

☆ この車は、平成19年排出ガス規制適合車です。

もくじ

必読！安全運転のために	運転の前に.....2	運転中は.....5	車の整備など.....6
取扱いの方法	各部の名称.....8 メータの見かた.....10 スイッチの使いかた.....22 ハンドルロック.....25	シート.....26 ヘルメットホルダ.....27 書類入れ、サービス工具.....28 ガソリンの給油.....29	ブレーキレバー.....30 リアショックアブソーバ.....30 チェンジペダル.....31
正しい運転操作	エンジンのかけかた.....32	走りかた.....34	ブレーキの使いかた.....35
お車の点検	日常点検、定期点検.....36	日常点検項目.....37	
簡単な整備	簡単な整備.....38 スロットルケーブル.....38 ブレーキ.....39 クラッチ.....41 エンジンオイル.....42	冷却水.....44 ドライブチェーン.....45 ヒューズ.....47 バッテリ.....48 タイヤ.....50	フューエルタンクカバー.....51 スロットルストップスクリュ.....53 エアクリーナ.....54
お車の手入れ	洗車.....55 つや消し塗装.....56 スロットルケーブルブーツ.....56	フェアリング.....56 アルミホイール.....57 保管のしかた.....57	環境を保護するために.....58
サービスデータ	主要諸元.....59	サービスデータ.....60	車台番号.....60

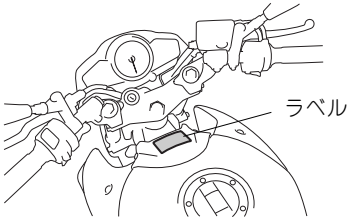
必読！安全運転のために

運転の前に

この章にあげた、日常走行する上での基本的な注意事項を守り、安全運転を心がけてください。

車の購入当初は、誰でも細心の注意をはらって運転しますが、慣れるに従い注意を怠ってしまいます。事故防止のため、いつも細心の注意をはらって運転しましょう。

重要な事項を書いたラベルが車に貼られています。これらの注意をいつもお守りください。



◇転倒などの際のけがを最小とするため、ヘルメットや手袋などの保護具を正しく着用してください。

◇取扱説明書をよくお読みください。

■ 安全な運転は正しい服装から

- ヘルメットを必ず着用してください。頭にしっくり合ったS、SGまたはJISマークのある二輪車用ヘルメットをかぶり、あごひもをしっかりしめましょう。
- ヘルメットシールドまたはゴーグルを使用してください。
- グローブを着用してください。グローブは摩擦に強い皮製が適しています。
- 服装は明るく目立ち、体の露出の少ない長袖、長ズボンを着用してください。万一のとき身体への衝撃を軽減します。
- 運転を阻害するような服装はやめましょう。そで口の広い服や、すそ広のズボンなどは運転操作の邪魔になります。
- 運転操作のしやすいくるぶしまで覆う靴をはいてください。



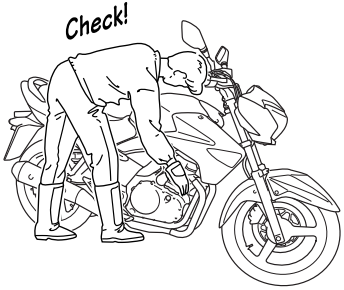
⚠警 告

- **ヘルメットを正しくかぶってください。正しくかぶらないと事故の際重大な傷害を負う可能性が高くなります。**
- **運転者と同乗者は、必ずヘルメットをかぶり正しい服装で乗車してください。**

- うしろの席に乗る人は、背丈の長いジャケットやコートを着用しないでください。テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されて、後続の車に見落とされるおそれがあります。
  やむを得ず着用する場合は、ジャケットやコートのすそをお尻の下に敷くなどして、テールランプやターンシグナルランプが覆い隠されないようにしてください。

■ 点検整備をしましょう

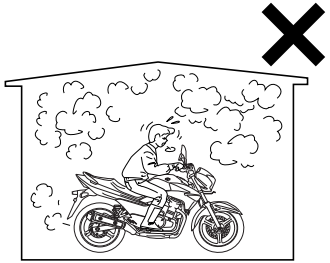
事故や故障を未然に防ぐため、日常点検と定期点検を必ず実施してください。
いつもと違う音やにおいがしたり、液漏れした場合などは、スズキ販売店で点検を受けてください。



運転の前に

■ エンジンをかけるときは

風通しのよい場所でエンジンをかけてください。

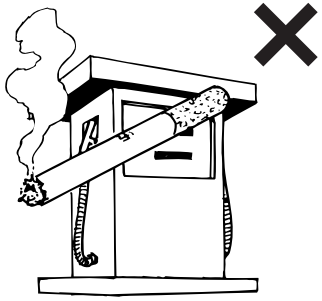


⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

■ 給油するときは

- ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。

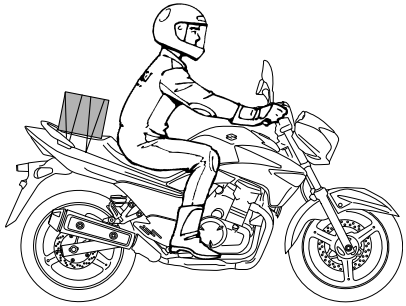


■ 乗車定員は2名

二人乗りでは通行できない道路区分もあります。また、二人乗りは年令や経験年数の制限もあります。二人乗りに関する条件や交通規制をしっかり守り、マナーのよい運転を心がけましょう。

■ 荷物

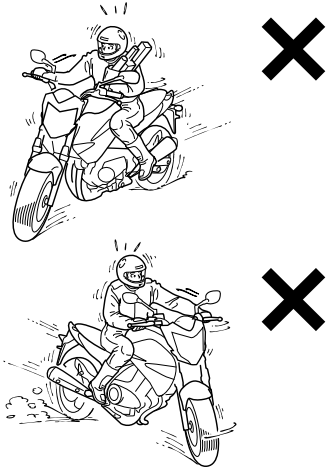
- 荷物を積むと、積まないときにくらべ操縦性・安定性が変わります。
- 荷物はゴムバンドなどでしっかり固定してください。



運転中は

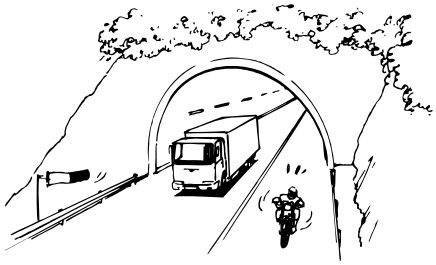
■ 乗りかた

- 運転中は両手でハンドルを握り、足をフットレストに置いてください。同乗者には両手で身体をしっかり固定させ、足は後席用フットレストに乗せさせてください。
- 急激なハンドル操作や片手運転は絶対にしないでください。横すべりや転倒の原因となります。



■ 風が強い日は

横風が強いとき、トンネルの出口や橋の上、あるいは大型トラックに追い越されたり追い越したりするときは、横風を受けて車が流されることがあります。
スピードを抑え、ハンドルをしっかり握って運転しましょう。



■ 雨の日、雪の日は

- 路面がすべりやすいので急加速、急減速、急ブレーキは避けてください。
- ふだんよりスピードをおとして、早めにブレーキをかけてください。

■ 駐車するとき

車から離れるときは、盗難抑止のため必ずハンドルをロックし、キーは抜いてお持ちください。

☛25ページの「ハンドルロック」参照

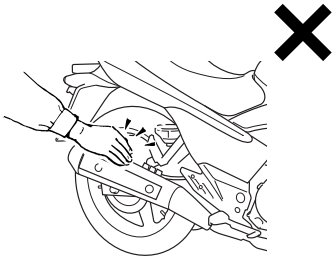
- 交通の邪魔にならない場所に駐車してください。
- 違法駐車はしないでください。
- 車は平らな場所に、ハンドルを左にきって駐車してください。ハンドルを右にきった状態での駐車は避けてください。
- やむをえず傾斜地、砂利の上、でこぼこな所、やわらかい地面などの不安定な場所に駐車するときは、車が転倒したり、動いたりしないように十分留意してください。

⚠注 意

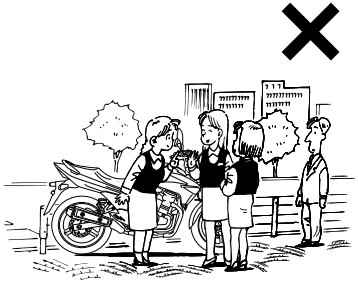
エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

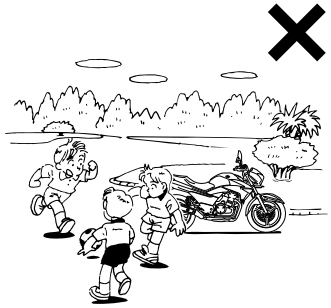
運転中は

- エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどに触れないでください。



- 他の人がマフラ、エンジンなどに触れることのない場所に駐車してください。



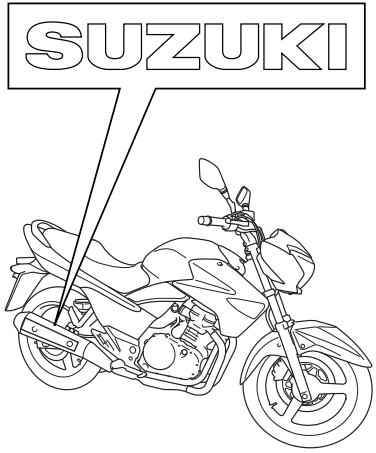


車の整備など

■ 不正改造はやめましょう

車の構造や機能に関係する改造は、操縦性を悪くしたり、排気音を大きくしたり、ひいては車の寿命を縮めることになります。このような改造は法律に触れるばかりでなく、他の人の迷惑となります。
車の改造は保証の適用を除外されますのでご了承ください。

- マフラには、スズキ純正部品を表す“SUZUKI”マークが刻印されています。



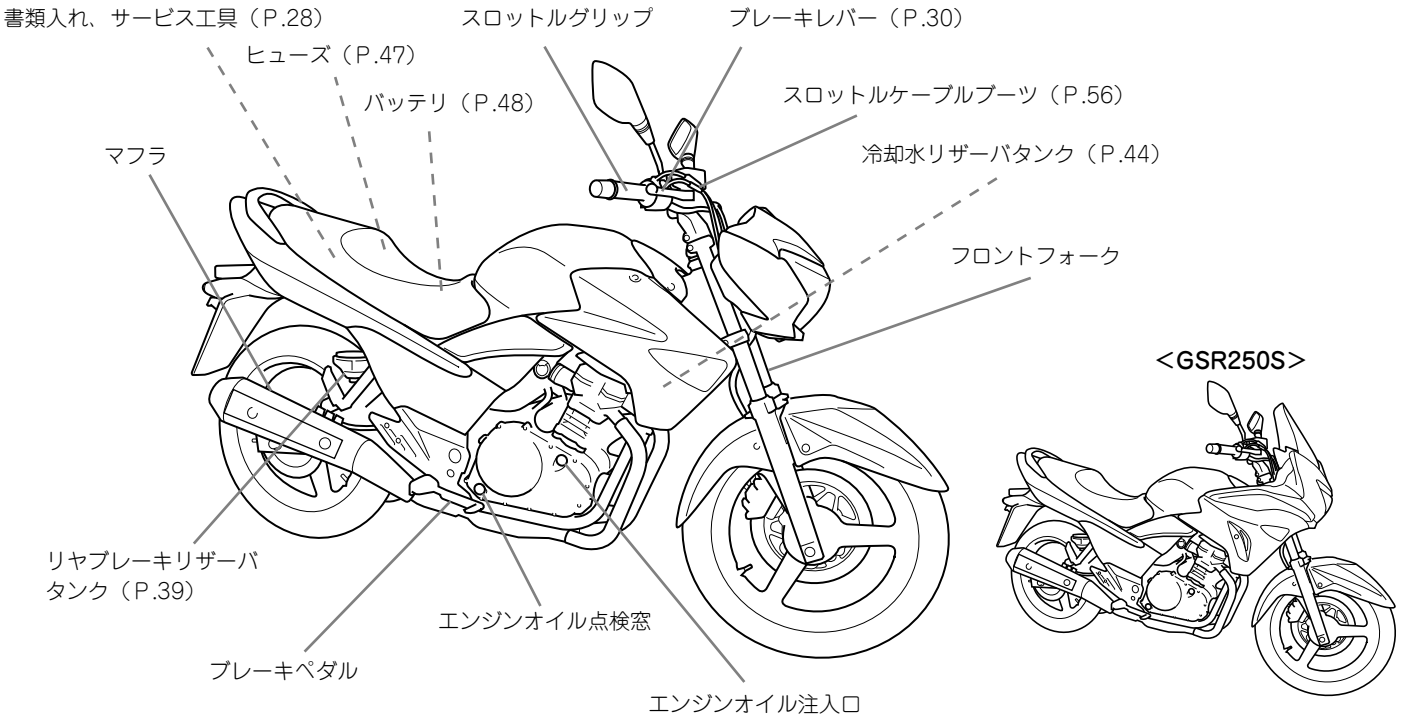
- 自己流のエンジン調整、部品の取外しは行わないでください。エンジン調整はスズキ販売店にご相談ください。
- あなたのお車に適したスズキ純正部品および指定・推奨油脂類をお使いいただくことをおすすめします。純正部品は厳しく検査し、スズキ車に適するように作られています。純正部品には下記の表示があります。



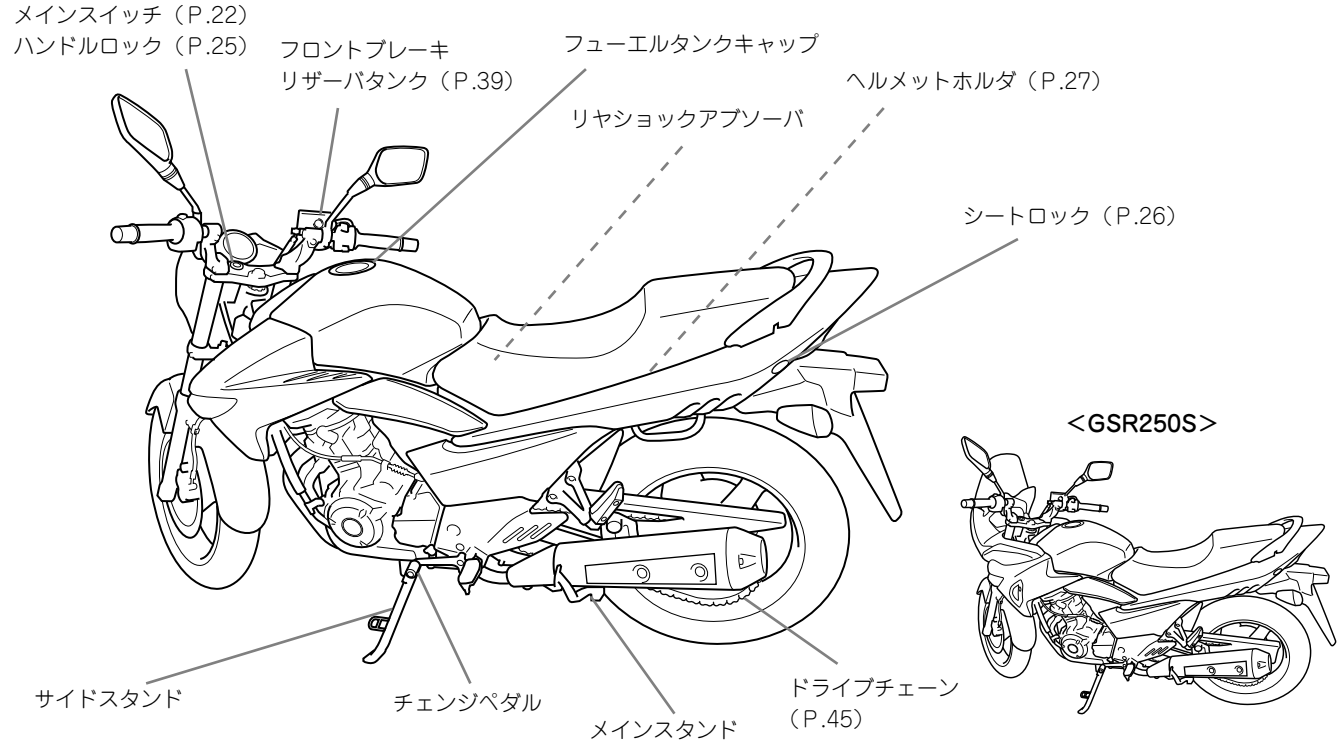
- この車は、排出ガス規制適合車です。
  マフラには排気ガスを浄化する触媒装置が内蔵されています。
  マフラを変更すると、排出ガス規制に適合しなくなるおそれがありますので、マフラを交換する場合はスズキ販売店にご相談ください。

各部の名称

<GSR250>



<GSR250>



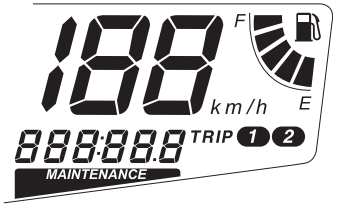
<GSR250S>

－－－部は見えない部分を示します。

メータの見かた

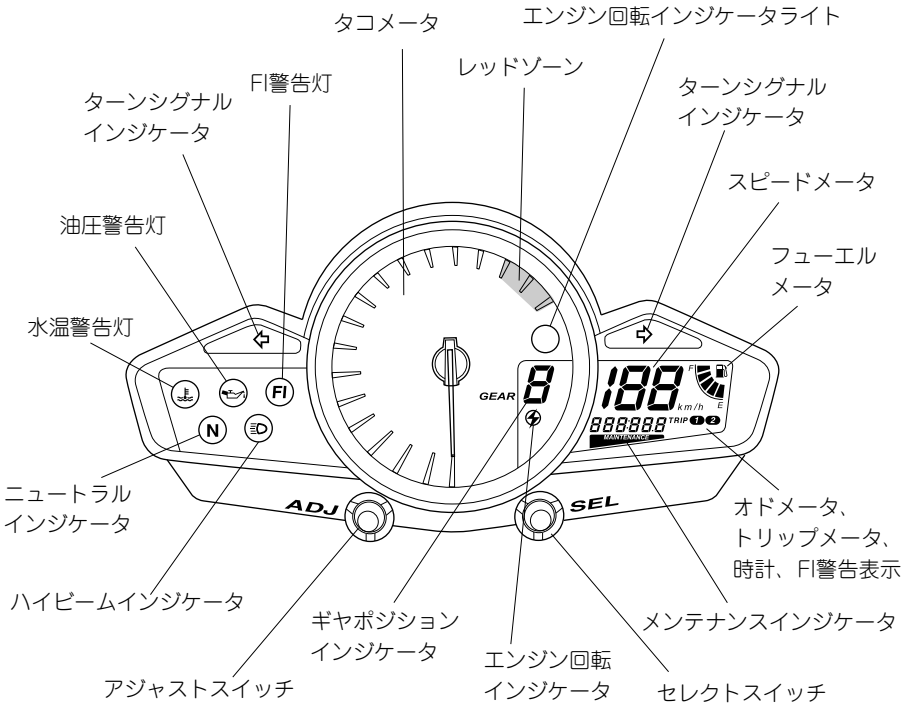
メインスイッチを**ON**にすると

- タコメータの指針が最大まで振れて“0”に戻ります。
- FI警告灯、水温警告灯、エンジン回転インジケータライトが3秒間点灯します。
- 油圧警告灯が点灯します。
- 液晶ディスプレイがチェックパターン表示を行います。



⚠警 告

走行中にスイッチ操作を行うと危険です。停止中に操作してください。



■ スピードメータ

車の走行速度をkm/hの単位で示します。

■ タコメータ

エンジンの回転速度を示します。

アドバイス

- **エンジンの回転速度がレッドゾーンに入らないよう注意して走行してください。**
- **空吹かしや、1速/2速での急加速はレッドゾーンに入りやすいので、特に注意してください。**

＜レッドゾーン＞

レッドゾーンとは、エンジンの許容回転速度を超えた回転域を示します。レッドゾーン内で使用すると、エンジンが円滑に回転しなくなり、エンジン寿命に悪影響を与えます。

＜指針の補正＞

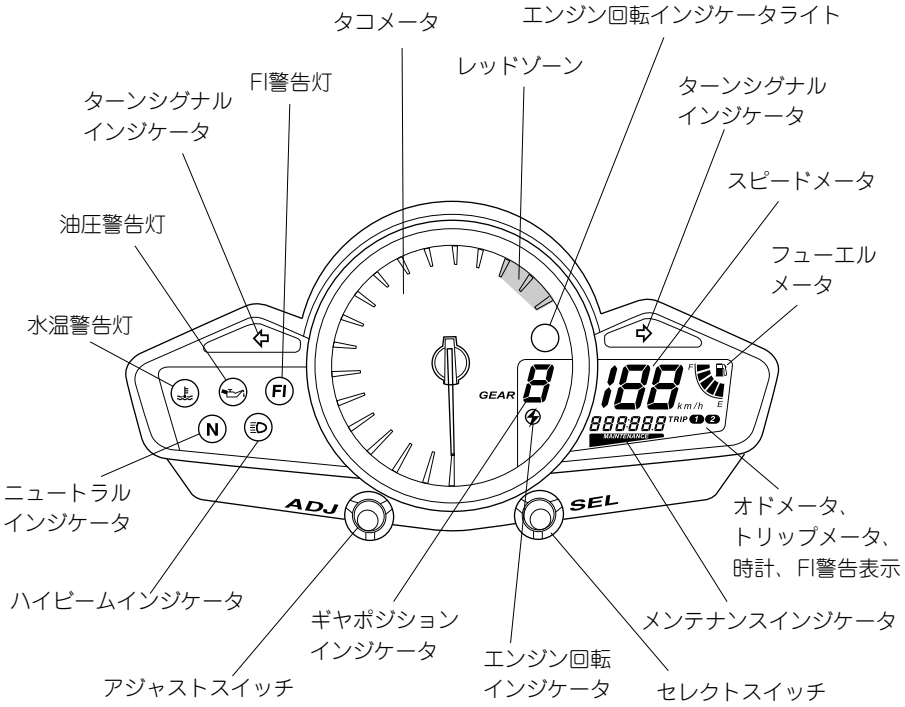
指針が0に戻らない場合、補正することができます。

1. アジャストスイッチを押したまま、メインスイッチを**ON**にします。
2. アジャストスイッチを約5秒間押し続けます。
3. アジャストスイッチをはなし、1秒以内にアジャストスイッチを2回押します。

アドバイス

1から3の操作を10秒以内に行ってください。

メータの見かた



■ オドメータ/トリップメータ/時計/FI警告表示

メインスイッチをONにするとチェックパターンを3秒表示後、トリップメータ1または2、時計もしくはオドメータを表示します。

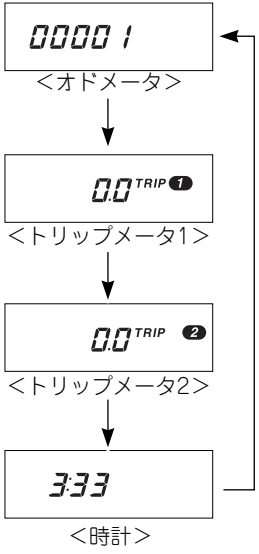
- セレクトスイッチを押すと右図のように切り換わります。
- メインスイッチを OFF にしても設定は記憶されます。

<オドメータ>

- 走行した総距離を km の単位で示します。
- オイル交換や定期点検などの目安となります。
- オドメータの表示範囲は、0～999999kmです。999999kmを超えると、オドメータは999999kmを表示し続けます。

＜トリップメータ＞

- **TRIP 1, 2** 2つのモードがあります。
  表示範囲は0.0～9999.9kmです。
- アジャストスイッチを約2秒間押すとリセットされ、“0.0”を表示します。
  リセットされるのは表示している**TRIP1**または **2** だけで、表示していない方はそのままです。



＜時計＞

時分を表示します。（12時間表示）



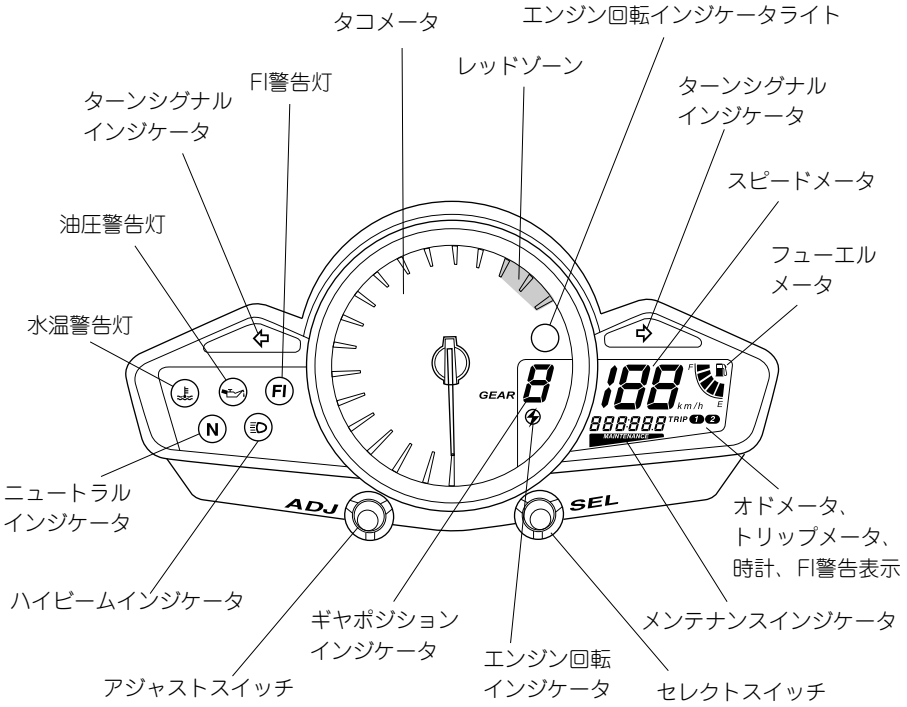
＜調整のしかた＞

1. アジャストスイッチ、セレクトスイッチを同時に約2秒以上押すと分表示が点滅します。
2. アジャストスイッチを押し任意の数値に合わせます。
3. セレクトスイッチを押すと時表示が点滅します。
4. アジャストスイッチを押し任意の数値に合わせます。
5. セレクトスイッチを押し元に戻します。

アドバイス

メインスイッチOFFでも、メータには微少電流が流れ、電力を消費しています。長期間（2か月以上）乗らない場合は、バッテリを外しておいてください。詳細は、P.57のアドバイスをご覧ください。

メータの見かた



<FI警告表示>

- 燃料噴射機構に異常が起きると、オドメータにFIと表示します。同時にFI警告灯が点灯または点滅します。



⚠注 意

- **FI 警告表示が表示されたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**
- **FI 警告の表示が出たまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**

アドバイス

- ディスプレイ内にFIと表示されFI警告灯が点滅している場合は、始動ができません。
- FI 警告灯が点灯していても走行できない場合もあります。
- 次の表示が出た場合は、エンジンが始動できません。

CHEC

以下の点検を行ってください。

- エンジンストップスイッチが ⊘ になっていないか
- チェンジがニュートラル以外でサイドスタンドが出ていないか
- ヒューズが切れていないか
- ワイヤハーネスに異常がないか

CHEC表示が消えないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

■ フューエルメータ

フューエルタンクのガソリン残量の目安を表示します。

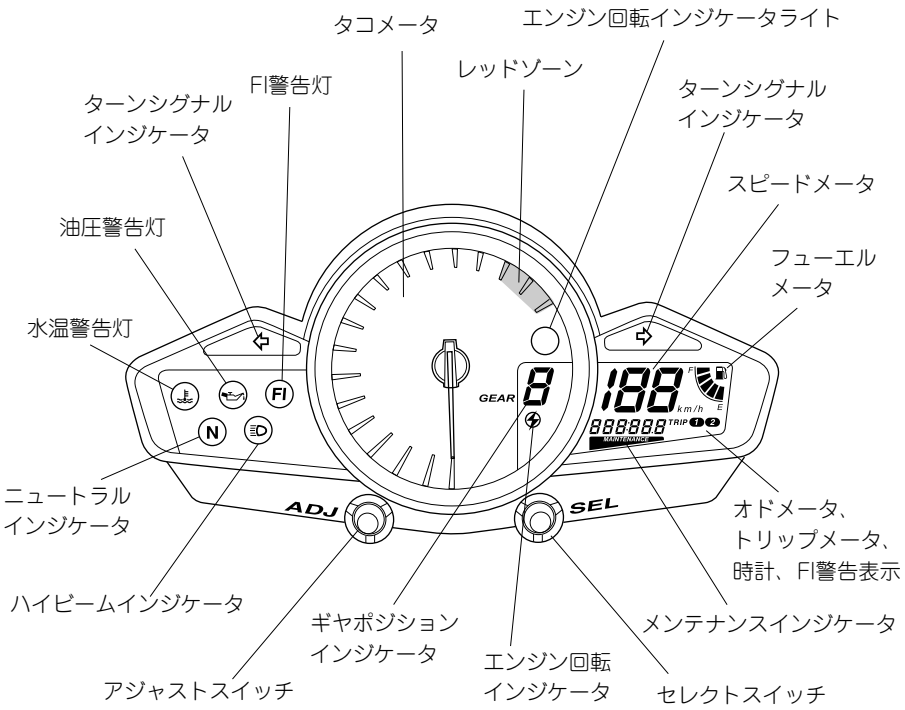
アドバイス

- ⛽マークが点滅したら、すみやかにガソリンを供給してください。
- サイドスタンド状態では、フューエルメータはガソリンの量を正しく表示できません。車体を垂直にした状態でキースイッチをONし確認してください。

表示		ガソリン残量
マーク点灯	F E	満タン
	F E	・
	F E	・
	F E	・
	F E	・
	F E	・
	F E	・
マーク点滅	F E	約4L
	F E	約2L

▮点灯　▯消灯　▮:点滅を表す

メータの見かた



■ 警告灯

<水温警告灯>

冷却水の温度が規定値を超えると点灯します。

⚠注 意

- **水温警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **水温警告灯が点灯したら、エンジンをとめてリザーバタンク内の冷却水量を点検してください。**
- **高温下で長時間にわたるアイドリングにより、点灯する場合があります。この場合は、走行してエンジンを冷やすか、冷えるまでエンジンを停止してください。**

<油圧警告灯>

- メインスイッチを **ON** にすると表示し、エンジンが始動すると消えます。
- 潤滑系統の油圧が低下すると、油圧警告灯が点灯します。

⚠注 意

- **油圧警告灯が点灯したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**
- **油圧警告灯が点灯したらエンジンをとめ、オイル量を点検してください。**
- **オイル量が正常でも点灯する場合は、スズキ販売店で点検を受けてください。**

<FI警告灯> *FI*

燃料噴射機構に異常が起きると、点灯または点滅します。

⚠注 意

- **FI警告灯が点灯または点滅したら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**
- **FI警告灯が点灯または点滅したまま運転しないでください。エンジンが損傷するおそれがあります。**

■ インジケータ

<ターンシグナルインジケータ>

ターンシグナルランプが作動すると点滅します。

<ハイビームインジケータ>

ヘッドランプが上向きのときに点灯します。

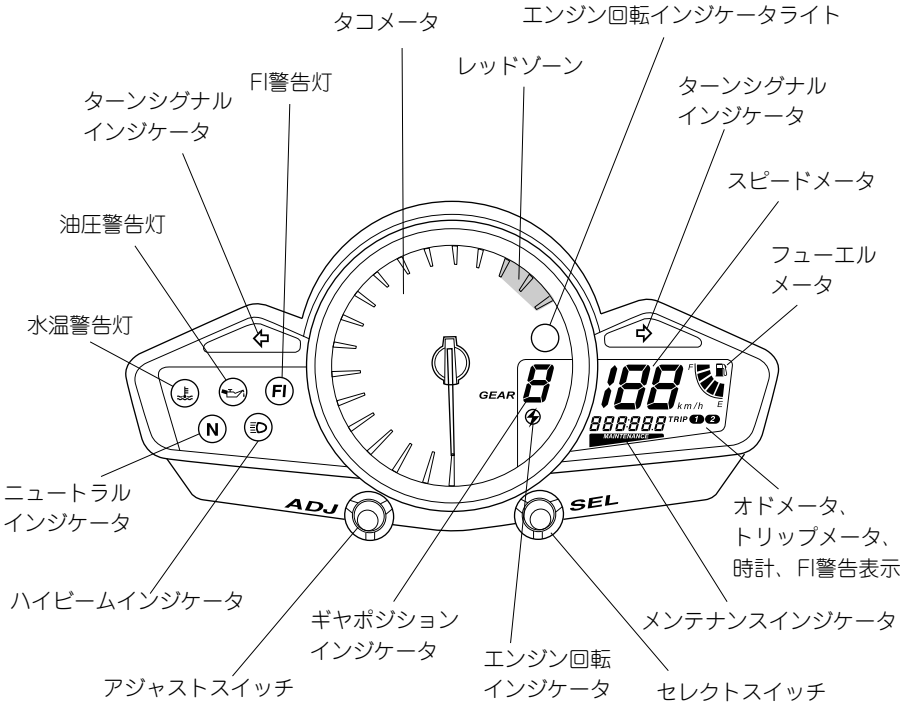
<ニュートラルインジケータ> N

変速ギヤがニュートラル(チェンジが入っていない)のときに点灯します。

<ギヤポジションインジケータ>

ギヤポジションを表示します。ニュートラル(チェンジが入っていない)のときは0を表示します。

メータの見かた



<メンテナンスインジケータ> MAINTENANCE

エンジンオイルの交換時期をお知らせします。
初回は1,000kmで表示、リセット後は6,000kmごとに表示します。初回の1,000kmを過ぎると、6,000 ⟷ 500kmの範囲で任意に設定することができます。

リセットのしかた

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. セレクトスイッチを押したままメインスイッチを**ON**にし約3秒間待ちます。
   MAINTENANCE が3回点滅して消え、リセットされます。
   このときのオドメータの数値が記憶され、6,000km（または設定値）走行後に再び表示されます。

アドバイス

- **MAINTENANCE が点灯したらオイルを交換し、リセットしてください。これにより次回オイル交換時期を表示することができます。**
- **点灯前にオイル交換した場合にも次回のオイル交換時期を正しく表示させるためリセットしてください。ただし初回1,000km 未満でのリセットはできません。**

オイル交換時期の設定

1. メインスイッチを**ON**にし、メータをオドメータ表示にします。アジャストスイッチを2秒以上押して MAINTENANCE を点滅させます。このときオドメータは、前回リセット時のオドメータの数字を3回点滅表示したあと、現在のインターバル設定値を点灯表示します。
2. セレクトスイッチを押すと 500km ずつダウンし、アジャストスイッチを押すと500kmずつアップします。

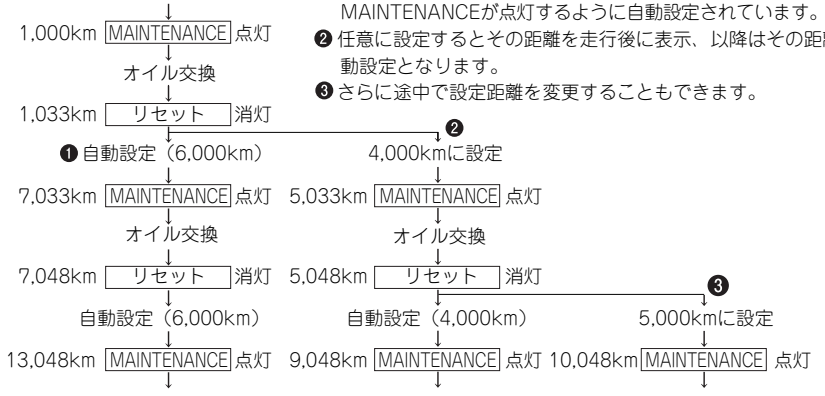
   500⇄1,000⇄・・・⇄5,500⇄6,000
3. 再びセレクトスイッチとアジャストスイッチを約2秒間以上押して設定完了です。オドメータが表示されます。

アドバイス

- **距離設定は、オドメータが 1,000km に達したあとに調整可能となります。**
- **メンテナンスはオイル交換時期の目安を示します。**
  メンテナンスノートに従って正しい時期にオイル交換をしてください。
- **オイル交換のインターバルは、交換時期の設定をしてからではなく、リセットしてからの距離を示します。**

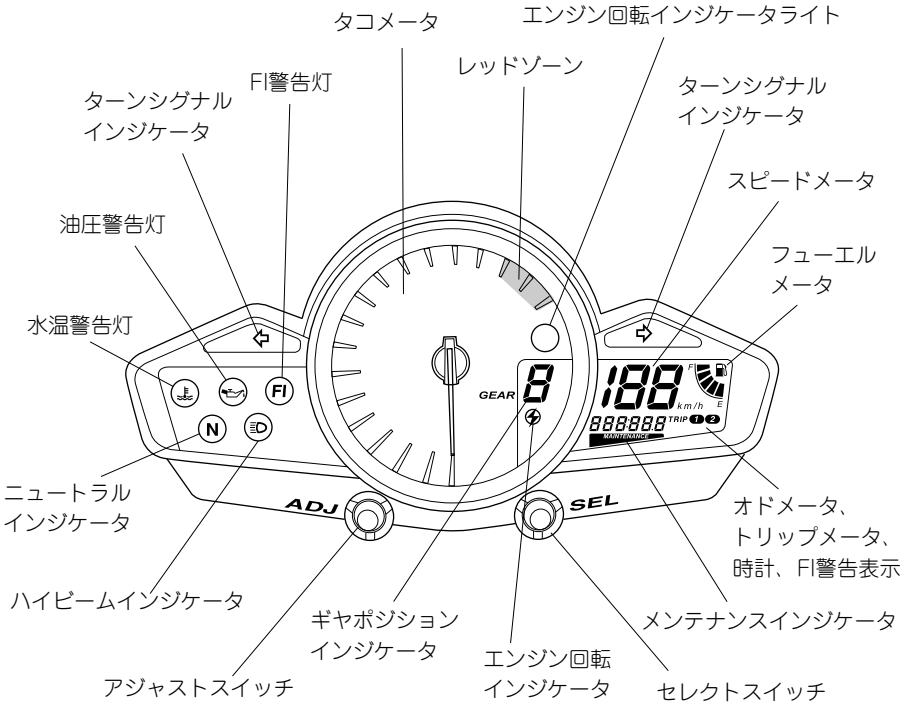
アドバイス

オイル交換時期 設定例



❶ 特に設定しない場合は、初回 1,000kmのあとは6,000km走行後にMAINTENANCEが点灯するように自動設定されています。
❷ 任意に設定するとその距離を走行後に表示、以降はその距離が自動設定となります。
❸ さらに途中で設定距離を変更することもできます。

メータの見かた



■ エンジン回転インジケータライト

エンジン回転速度が設定値に達すると、エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅し、シフトアップのタイミングをお知らせします。
エンジン回転インジケータライトの点灯設定、点灯タイミング（エンジン回転数）設定は、エンジン回転インジケータライトの設定モードで変更することができます。
メータ表示を、エンジン回転インジケータライト設定モードに切り替えるには、メインスイッチをONにし、表示が切り替わるまでセレクトスイッチを2秒以上押し続けます。表示が切り替わると、オドメータ/トリップメータ/時計/FI警告表示が消えます。

アドバイス

エンジン回転インジケータライトを点灯、点滅させたくない場合は、エンジン回転インジケータライトの設定モードで消灯に設定してください。

点灯設定（点灯／点滅／消灯）

アジャストスイッチを押してエンジン回転インジケータライトの点灯設定を変更します。点灯設定は、アジャストスイッチを押す毎に、点灯→点滅→消灯→点灯と変化します。エンジン回転インジケータライトが点灯または点滅に設定されている場合は、“⚡”マークが表示されます。セレクトスイッチを押すと、選択が確定します。点灯設定を点灯または点滅に設定した場合、続けて点灯タイミング（エンジン回転数）の選択を行います。

点灯タイミング（エンジン回転数）設定

点灯設定後、点灯タイミング（エンジン回転数）設定に切り換わります。現在設定されているエンジン回転数をタコメータの指針が示します。
アジャストスイッチを押して、エンジン回転インジケータライトの点灯または点滅を開始させたい回転数に設定します。タコメータの針は、アジャストスイッチを押すごとに4000r/min ～ 11000r/min の間で1000r/min刻みで変化します。タコメータの指針をお好みの回転数に合わせ、セレクトスイッチを押すと設定が記憶され、通常表示に戻ります。

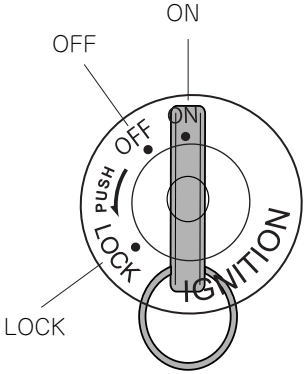
アドバイス

- **エンジン回転インジケータシステムは、メインスイッチをOFFにしても設定を記録しています。**
- **エンジン回転インジケータライトの設定モード中に、メインスイッチをOFFにしたり、車両速度が10km/h以上になると自動的に設定モードを解除し、通常のメータ表示に戻ります。この場合、設定途中のものは記憶されていません。**

スイッチの使いかた

■ メインスイッチ

電気回路の**ON**-**OFF**をキーを回して行います。



ON

- エンジンの始動、走行ができます。
- 次のランプが点灯します。
  [ヘッド、ポジション、テール、ライセンス、メータ]
- スイッチ、ランプ類が使えます。
  [ターンシグナル、ホーン、スタータ、パッシング、ハザード（GSR250S）]
- キーが抜けません。

OFF

- エンジンが停止します。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

LOCK

- ハンドルがロックします。
- ランプ類が使えません。
- キーが抜けます。

⚠警 告

● 走行中はキーを操作しないでください。思わぬ事故につながることがあります。キーは停車後操作してください。

● 衝突やスリップにより転倒した場合は、車両に想定できない異常が発生する可能性があります。車両の異常により火災が発生したり、リアホイールなどの回転する部品に巻き込まれる可能性があります。
転倒した場合は、すぐにメインスイッチをオフにして、全ての装置を停止させます。転倒した時に、見えない部分に損傷を受けている可能性があるので、スズキ販売店にて点検を受けてください。

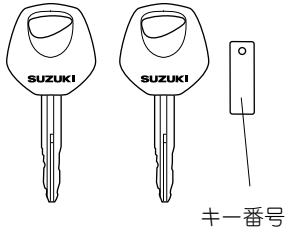
アドバイス

● メインスイッチONでヘッドランプなどが点灯するため、エンジンをかけずにONのままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

● 車から離れるときは、盗難抑止のためハンドルをロックし、必ずキーを抜いてお持ちください。

● キーはメインスイッチ、フューエルタンクキャップなどに共通して使います。

● スペアキーは大切に保管しておいてください。



● ブランクキーを注文するとき、プレートのキー番号が必要になります。大切に保管してください。
英数字のキー番号を控えることをおすすめします。詳しくは、販売店にご相談ください。
キー番号 _____

■ ターンシグナルスイッチ

右折または左折するときや進路変更などの合図に使います。

右折

スイッチを⇨側に押すと、右側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

左折

スイッチを⇦側に押すと、左側ターンシグナルランプが点滅します。スイッチを前に押してランプを消します。

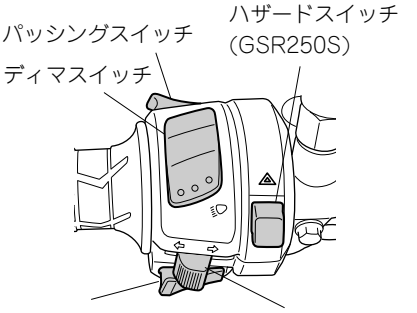
▲警 告

ターンシグナルスイッチは自動的に解除されません。使用後は必ずスイッチを前に押して解除してください。点滅したままにしておくと周囲の誤判断を招き、事故を起こすおそれがあります。

アドバイス

ターンシグナルランプの電球（バルブ）に、正規ワット数以外のものを使用するとターンシグナルが正しく作動しません。必ず正規ワット数のものを使用してください。

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。



■ ディマスイッチ

ヘッドランプの向きを切り換えます。

ハイビーム

スイッチを≡D側に押すと、ヘッドランプが上向きになります。

ロービーム

スイッチを≡D側に押すと、ヘッドランプが下向きになります。

注 記

- **ディマスイッチをハイビームとロービームの中間位置に止めると、ハイビームとロービームの両方が点灯することがあります。このような状態で走行すると、車両に損傷を与えるおそれがあります。**
- **ヘッドライトにはテープ類を貼らないでください。**

アドバイス

対向車や先行車があるときはロービームで走行してください。

■ パッシングスイッチ

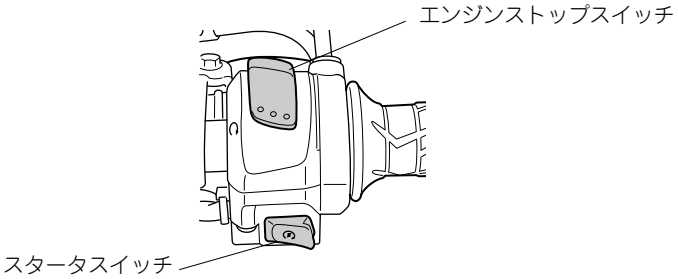
追い越しのときなどに、自車の存在を知らせます。スイッチを押すとヘッドランプのハイビームが点灯します。ハイビーム点灯中は作動しません。

■ ホーンスイッチ

スイッチを押すとホーン（警音器）が鳴ります。

スイッチの使いかた

それぞれのスイッチはメインスイッチが**ON**のとき作動します。



■ ハザードスイッチ

(GSR250S)

故障などの非常時に、停車するとき使用します。

スイッチを ⚠ 側に押すと、すべてのターンシグナルランプが点滅します。

アドバイス

非常時以外は、使用しないでください。エンジン停止状態での使用は、バッテリーあがりの原因となります。

■ スタータスイッチ

クラッチレバーを握り、スイッチを押すとスタータモータが回転し、エンジンが始動します。サイドスタンドとギアの位置によりエンジンが始動しない場合があります。詳細はP32＜サイドスタンドインタロック＞をご覧ください。

アドバイス

- **スタータモータを連続して回転させないでください。消費電力が大きいためバッテリあがりの原因となります。**
- **エンジンストップスイッチが ⊗ のときは作動しません。**

■ エンジンストップスイッチ

転倒などの非常時に、ただちにエンジンを停止させます。

スイッチを ⊗ 側に押すと、エンジンが停止します。通常は、∩にしておきます。

⚠警 告

走行中にエンジンストップスイッチを∩→⊗→∩にしないでください。
エンジンが円滑に回転しなくなり、走行不安定の原因となります。またエンジンに悪影響を与えます。

アドバイス

エンジンストップスイッチでエンジンを停止したときは、必ずメインスイッチを OFF にしてください。ON のままにしておくとバッテリあがりの原因となります。

ハンドルロック

車から離れるときは、盗難抑止のためにハンドルロックをかけましょう。
チェーンロックなどの併用もおすすめします。

＜かけかた＞

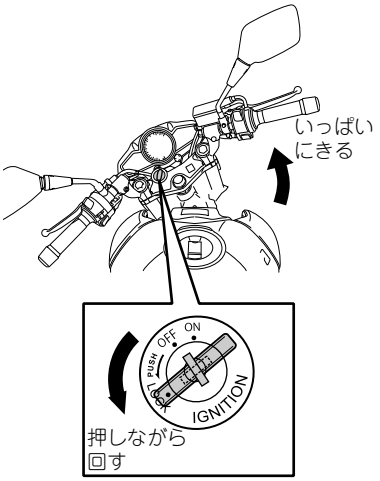
1. ハンドルを左へいっぱいにきります。
2. キーを押しながら、**OFF**から**LOCK**まで回します。
3. キーを抜きます。

アドバイス
ハンドルを左右に動かして、確実にロックされているか確認してください。

＜外しかた＞

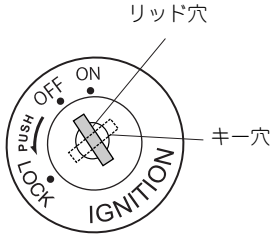
キーを差し込み、押しながら、**OFF**まで回します。

アドバイス
走行前にハンドルを左右に動かして、切れ角が左右均等かを確認してください。



ハンドルロックのかけかた

アドバイス
- **メインスイッチのキー穴をカバーするリッドを設けています。ハンドルロックの後に、リッド位置をずらしておいてください。**



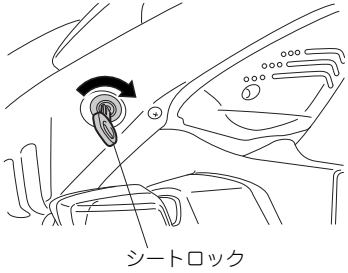
- **キーを差すときは、リッド穴をキー穴に合わせてください。**



シート

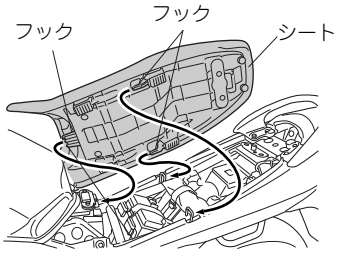
＜取外し＞

1. シートロックにキーを差し込み、右に回してロックを解除します。
2. シートの後部を持ち上げ、後へスライドして外します。



＜取付け＞

1. シート裏側のフックを車体側に差し込みます。
2. シートの後部を押し下げ、ロックします。



アドバイス

- **シートを軽く持ち上げ、ロックがかかったことを確認してください。**
- **シートの下にキーを置いたままロックすると、キーが取り出せなくなりますので注意してください。**

ヘルメットホルダ

ヘルメットの盗難抑止のため、ヘルメットホルダを使いましょう。

1. シートを外します。
2. ヘルメットホルダにヘルメットの金具をかけます。
3. シートを閉じます。



⚠警 告

ヘルメットホルダにヘルメットをつけたまま走行しないでください。運転の妨げになります。またヘルメットに損傷を与え保護機能を低下させます。

アドバイス

ヘルメットによっては、ヘルメットの形状やあごひもの長さにより、ヘルメットホルダに取り付けできないことがあります。

書類入れ、サービス工具

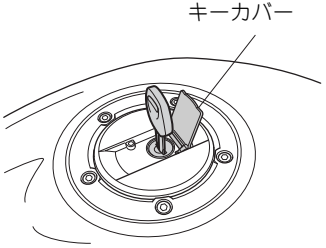
シートを外すと書類入れ、サービス工具があります。

- サービス工具は、袋に入れバンドで固定してください。
- メンテナンスノートは、ビニール袋に入れてここに保管してください。

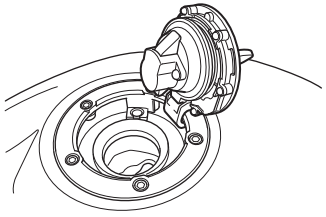


ガソリンの給油

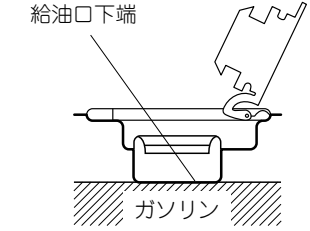
1. フューエルタンクキャップのキーカバーを開けます。



2. キーを差し込み、右に回してロックを解除します。
3. キャップを持ち上げます。



4. ガソリンを給油口の下端まで入れます。
   指定燃料：無鉛レギュラーガソリン
5. キャップを押し下げ、キーを左へ回して抜きます。キャップがロックされないとキーは抜けません。



⚠警 告

ガソリンは引火性が高く取扱いを誤ると火災を起こすおそれがあります。

- **ガソリンを給油するときは、エンジンをとめて火気を近づけないでください。**
- **給油は、必ず屋外で行ってください。**
- **フューエルタンクキャップを開ける前に車体や給油機などの金属部分に触れて身体の静電気を除去してください。静電気を帯びていると、放電の火花でガソリンに引火するおそれがあります。**
- **給油操作は、一人で行い他の人を近づけないでください。**
- **ガソリンは給油口下端より上に入れないでください。キャップからガソリンがにじみ出ることがあります。**
- **給油後、フューエルタンクキャップをカチッと音がするまで確実に閉めてください。**
- **こぼれたガソリンは、布などで完全にふき取ってください。**

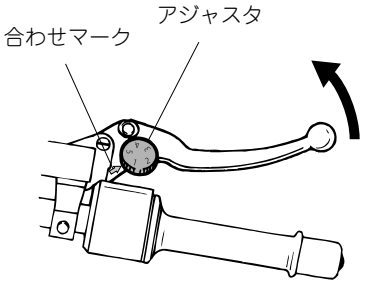
注 記

必ず無鉛ガソリンを使用してください。有鉛ガソリンや粗悪ガソリン、その他アルコール系の燃料、軽油などは、エンジンや燃料系統を損傷する原因となります。

ブレーキレバー

ブレーキレバーとグリップとの間隔が調整できます。

- ブレーキレバーを前方へ押し、アジャスタを回します。
- アジャスタの数字を合わせマークにしっかりと合わせます。



1	2	標準3	4	5
⬅ 広い				狭い ⇨

⚠警 告

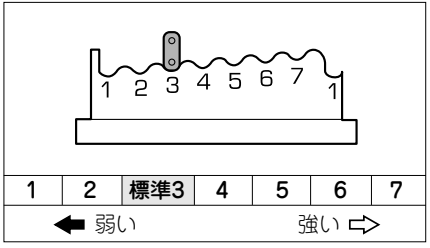
走行中は調整を行わないでください。思わぬ事故につながることがあります。調整は停車中に行ってください。

リアショックアブソーバ

■ スプリングの強さ

サービス工具のクランプレンチでアジャスタを回します。





1	2	標準3	4	5	6	7
⬅ 弱い						強い ⇨

⚠警 告



リヤショックアブソーバには、高圧の窒素ガスが封入されています。不適切な取り扱いをすると、爆発や破裂が起こる恐れがあります。

- **火や熱から遠ざけてください。**
- **取扱説明書をよくお読みください。**

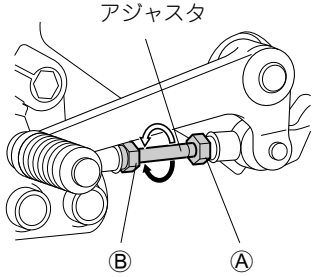
アドバイス

リヤショックアブソーバを廃棄するときは、スズキ販売店へご相談ください。

チェンジペダル

チェンジペダルの位置が調整できます。

- ロックナットⒶ、Ⓑをゆるめ、アジャスタを回します。
- アジャスタを手前(⬇)に回すとペダルの位置が低く、反対(⇧)に回すと高くなります。



アドバイス

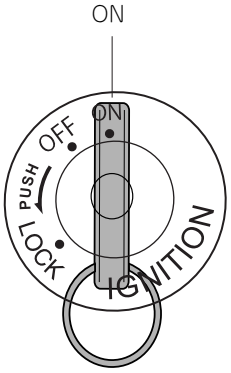
- **調整後ロックナットを確実に締め付けてください。**
- **ロックナットⒶ、Ⓑは左ねじです。ゆるめるときは右に回し、締め付けるときは左に回します。**

正しい運転操作

エンジンのかけかた

■ エンジンをかける前に

1. エンジンストップスイッチが○になっていることを確認します。
2. メインスイッチを**ON**にします。
3. ニュートラルインジケータの点灯を確認します。点灯しないときは、チェンジレバーを操作して**ニュートラル**にします。
4. FI警告灯の消灯を確認します。



⚠警 告

排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中など、風通しの悪い場所では、エンジンをかけないでください。排気ガスにより、ガス中毒を起こすおそれがあります。

アドバイス

- **エンジン始動時の飛び出しを防ぐため、クラッチスイッチを設けています。クラッチレバーを握らないとエンジンがかかりません。**
- **メインスイッチを ON にすると、約 2 秒間 FI の作動音がしますが異常ではありません。**

＜サイドスタンドインタロック＞

- サイドスタンドの外し忘れ防止装置です。
- サイドスタンドが出ているときは、チェンジ位置**ニュートラル**でのみエンジンがかかります。
  また**ニュートラル**以外のとき、サイドスタンドを出すとエンジンが停止します。

チェンジ ＼ サイドスタンド	出ている	外している
ニュートラル	◎	◎
ニュートラル以外	×	○

◎：始動可 ○：始動･走行可 ×：始動･走行不可

⚠警 告

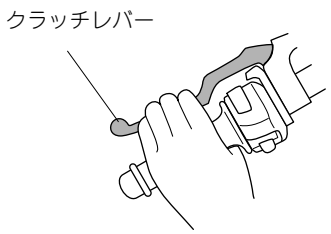
走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

アドバイス

- **サイドスタンドが完全に外していないとき、チェンジを操作するとエンジンが停止します。**
- **サイドスタンドがスムーズに作動しないときは、取り付け部へ注油してください。**

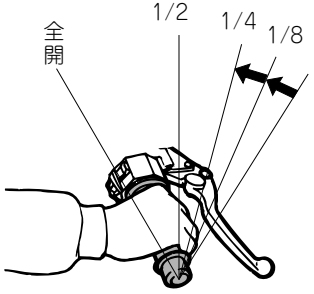
■ エンジンのかけかた

1. クラッチレバーを握ります。



2. スロットルグリップは回さずに、スタータスイッチを押します。

● 2～3回スタータスイッチを押してもエンジンがかからないときは、スロットルグリップを1/8～1/4ほど回し、スタータスイッチを押します。



3. エンジンがかかったら、スタータスイッチ、クラッチレバーから手を放し、回転がスムーズになるまでエンジンを暖めます。

注 記

バッテリ充電などのために、長時間のアイドリングはしないでください。
オーバーヒートなどによる不具合の原因となります。

アドバイス

- **スタータスイッチを押して 5 秒以内にかからないときは、バッテリ電圧を回復させるため、メインスイッチを一旦OFFにして、10 秒くらい休んでください。**
- **エンジンがかかったらスタータスイッチ、スロットルグリップを戻してください。**

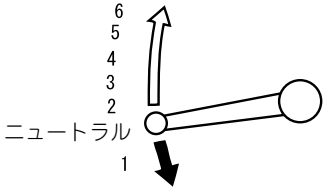
アドバイス

- **長期間エンジンをかけなかったときや、ガス欠をし、ガソリンを給油したときは、エンジンがかかりにくいことがあります。このようなときはスロットルグリップを回さないでスタータスイッチを通常より多く使ってください。**
- **スロットルグリップを約 2/3 以上回してスタータスイッチを押すと燃料及び点火が停止し、始動できないようになっています。**
- **不必要な空ふかしはしないでください。ガソリンの無駄使いになるばかりでなく、エンジンに悪影響を与えます。**
- **転倒した場合は、自動的にエンジンが停止するシステムが作動し、同時に FI ランプが点灯します。エンジンを再始動するには、車両を起こしたあと、メインスイッチを一旦 OFF にして、再び ON にしてください。FI ランプが消灯すると、エンジンの再始動が可能になります。FI ランプが点灯したままスタータスイッチを押し続けないでください。**
  バッテリ上がりの原因となります。

走りかた

1. サイドスタンドを外します。
2. クラッチレバーを握り、チェンジペダルを操作してギヤを1速に入れ、静かに発進します。
3. 車のスピードに応じてギヤを切り換えます。ギヤチェンジは6段リターン式です。ギヤチェンジは、スロットルグリップを一旦戻して、クラッチレバーを完全に握ってから行ないます。チェンジ操作は、つま先で軽く行ない、ペダルにコツンと感じるまで確実に行なってください。

ギヤ	適応速度(km/h)
1速	0 ～ 40
2速	15 ～ 60
3速	30 ～ 80
4速	40 ～
5速	45 ～
6速	50 ～



▲警 告

走行中サイドスタンドを操作しないでください。エンジンが停止し、思わぬ事故の原因となります。

注 記

- **無理なチェンジ操作をしたり、チェンジペダルに足を乗せたまま走行すると、チェンジ機構の損傷の原因となります。**
- **エンジンが異常な高温になると、クラッチの切れが悪くなることがあります。安全な場所で、エンジンを停止して冷やしてください。**

アドバイス

- **チェンジ操作はコツンと感じるまで確実に行ってください。**
- **むやみにエンジンの回転を上げないでください。エンジン寿命に悪影響を与えます。**
- **スピードは控えめにしましょう。**
- **走行中に異常を感じたら、すぐにスズキ販売店で点検を受けてください。**

「感情的な走りはいけません
心のブレーキを忘れずに！」

<シフトダウン>

追越しをするときなど、強力な加速が必要なときは、シフトダウンすると加速力が得られます。シフトダウンは各速5,000rpm以下で行ってください。

▲警 告

あまり高い回転数でシフトダウンを行うと、エンジン回転が上がりすぎてエンジン、ミッションが故障したり、走行安定性を失い尻振りなどの原因となります。

<ならし運転>

ならし運転を行うと、お車の寿命を延ばします。

- 最初の 1,000km を走行するまではエンジン回転5,500rpm以下で走行してください。
- 新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。
  倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。
- 不必要な空ふかしや急加速、急減速、急ハンドル、急ブレーキは避けてください。

ブレーキの使いかた

ブレーキは前後同時に使い、エンジンブレーキを併用します。

＜エンジンブレーキ＞

スロットルグリップを戻すことによってエンジンブレーキがはたらきます。さらに強力なエンジンブレーキを必要とするときは6速→5速…とシフトダウンします。

⚠警 告

- **急激なシフトダウンは走行安定性を失い、尻振りの原因となる事があります。速度に合せたギヤを選んでください。**
- **フロントブレーキまたはリヤブレーキのみ使うと、車が横すべりして転倒するおそれがあります。**
- **濡れた路面や雪道、凍った路面は、乾いた路面より制動距離が長くなります。早めにブレーキをかけてください。**
- **長い下り坂などでは、エンジンブレーキを併用し、連続的なブレーキ操作は避けてください。ブレーキのききが悪くなるおそれがあります。**
- **不必要な急ブレーキは避けましょう。急ブレーキは横すべりや転倒の原因となります。**

注 記

上り坂などで、アクセル操作やクラッチレバー操作でバランスを取るなどして車を停止させようとしないでください。クラッチが過熱し、故障の原因となります。

アドバイス

- **濡れた路面ではスリップしやすいので急激なブレーキは避け、スピードを落として余裕をもったブレーキ操作をしましょう。**
- **洗車後や水たまり走行後は、ブレーキのききが悪くなる場合があります。ききが悪い場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。**

お車の点検

日常点検、定期点検

お車を快適に使用し、事故を未然に防ぐため、法令に準じて日常点検と定期点検を必ず実施してください。

＜日常点検＞

日常の車の使用状況に応じて、お客様の判断で適時行う点検です。
この車に適用される日常点検の項目は次ページをご覧ください。

＜定期点検＞

車を使用する人自身の責任において定期的に行う点検整備です。

⚠警 告

日常点検や定期点検を怠ると、事故や故障の原因となることがあります。

アドバイス

- **お車を使用しないときも定期点検は実施してください。**
- **お車を長期間休ませた後に使い始めるときは入念に点検することが大切です。**

- 定期点検結果は、別冊「メンテナンスノート」に記録する必要があります。ご自身で点検できない項目については、スズキ販売店で点検を受けて記録してください。
- 点検内容など、詳しくは別冊「メンテナンスノート」の“日常点検の方法”“定期点検の解説”をご覧ください。
- 初期点検(1か月)はお買いあげいただいたスズキ販売店が無料で実施します。ただし他店では有料となります。また油脂代、部品代およびその交換工賃は有料です。

⚠警 告

点検は、安全に十分注意してください。

- **平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **排気ガスには一酸化炭素などの有害な成分が含まれています。しめきったガレージの中や風通しの悪い場所でエンジンをかけての点検はやめてください。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**
- **走行して点検する場合は、周囲の交通事情に十分注意してください。**
- **異常が認められたときは、ご自身またはスズキ販売店で確実に整備してからお乗りください。**

日常点検項目

ブレーキ
- ブレーキレバーの遊び、ブレーキペダルの遊び
- きき具合
- ブレーキ液の量

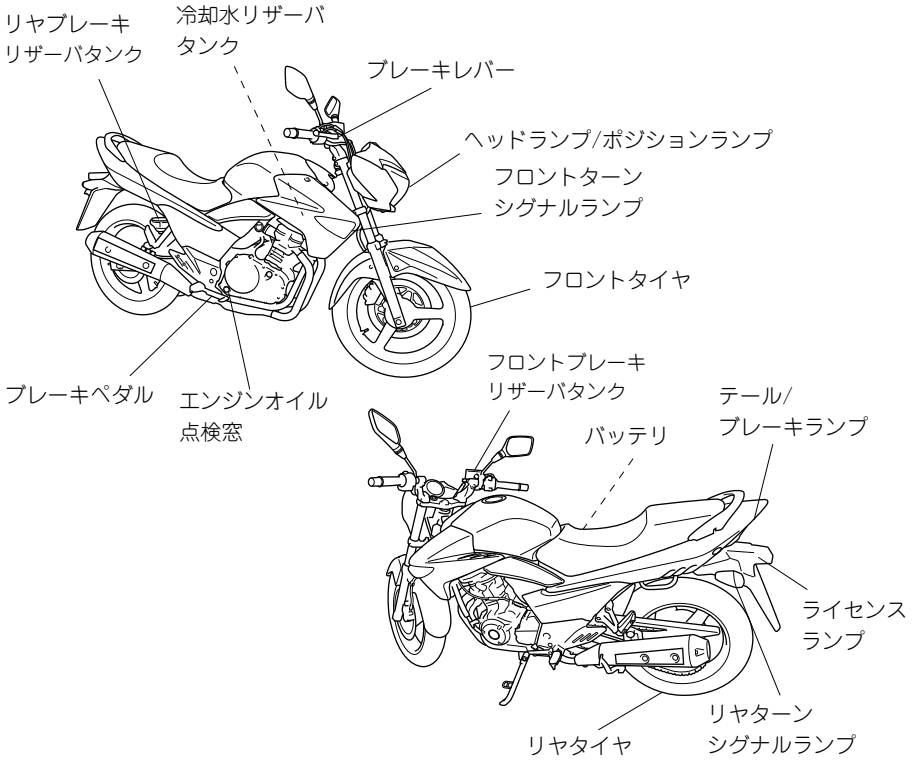
タイヤ
- 空気圧
- 亀裂、損傷、異物、異常摩耗
- 溝の深さ

エンジン
- エンジンオイルの量
- 冷却水の量
- かかり具合、異音
- 低速、加速の状態

チェーン
※ 緩み

灯火装置、方向指示器（ランプ類）
運行において異常が認められた箇所
※印の点検は、メーカー指定点検を示します。

＜日常点検・部品配置＞



簡単な整備

ここでは、通常行われることが多い簡単な点検、整備の方法を説明しています。

⚠警 告

- **整備は、安全のためご自身の知識・技量の範囲で行ってください。難しいことはスズキ販売店にご相談ください。**
- **平坦な足場のしっかりした場所で、メインスタンドを立ててください。**
- **エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。**
- **点検、整備を行うときは火気厳禁です。**

注 記

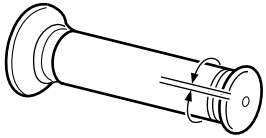
- **整備はエンジンを停止し、キーを抜いた状態で行ってください。**
- **適切な工具を使用しましょう。**
- **スイッチにグリスを塗ったり、油を注したりしないでください。故障の原因となります。**

アドバイス

油脂類の廃液は、法令で適切な処理を行うことが義務づけられています。廃液の処理はスズキ販売店にご相談ください。

スロットルケーブル

■ スロットルケーブルの遊びの点検



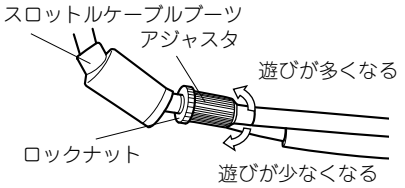
2～3mm

スロットルグリップを操作し、スロットルケーブルの遊びの量が、2～3ｍｍの範囲内にあるかを確認します。遊びの量が範囲から外れている場合は、調整してください。

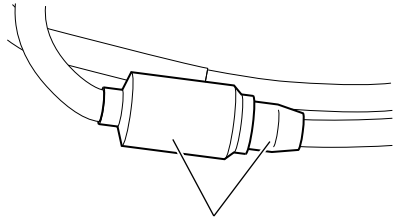
■ スロットルケーブルの遊びの調整

アジャスタにより遊びを調整します。

1. スロットルケーブルブーツをずらし、ロックナットをゆるめます。アジャスタを右に回すと遊びが少なく、左に回すと遊びが多くなります。



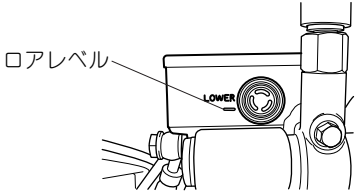
2. 調整後は、スロットルケーブルブーツをかぶせてください。



ブレーキ

■ ブレーキ液の量の点検

平坦地で車体を垂直にし、ハンドルを直進状態にして、リザーバタンクの液面がロアレベルより上にあるかを点検します。
液面がロアレベル以下の場合はブレーキパッドの摩耗点検を行ってください。



▲警 告

ブレーキ液は安全のため2年毎の交換をしてください。
指定ブレーキ液：
スズキブレーキフルードDOT4
（JIS BF-4）

▲警 告

- **ブレーキ液の減りが著しいときはブレーキ系統の液漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。**
- **ブレーキ液を取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。**

▲注 意

- **化学変化を防止するため、銘柄の異なるブレーキ液を使用しないでください。**
- **リザーバタンク内にゴミや水などが混入しないよう注意してください。**
- **ブレーキ液の入れ過ぎに注意してください。あふれ出るおそれがあります。**

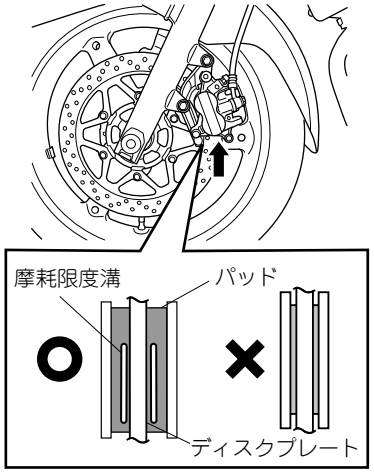
アドバイス

- **ブレーキ液は塗装面やプラスチックおよびゴム類を損傷させます。付着したらすぐにふき取ってください。**
- **ブレーキ液面はブレーキパッドの摩耗と共に、下がっていきます。**

■ ブレーキパッドの摩耗の点検

<フロントブレーキ>

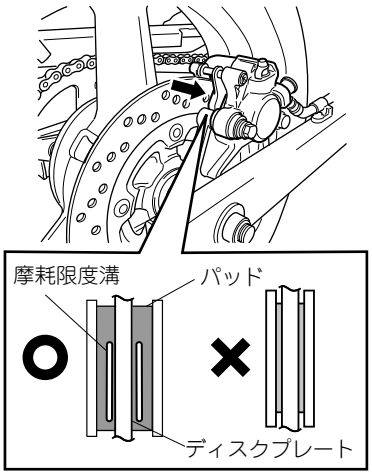
ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。



ブレーキ

＜リヤブレーキ＞

ブレーキキャリパをのぞいて、パッドの摩耗を点検します。
摩耗限度溝がディスクプレートまで達したら（パッドの厚さが約1mmになったら）、パッドを交換してください。



▲警 告

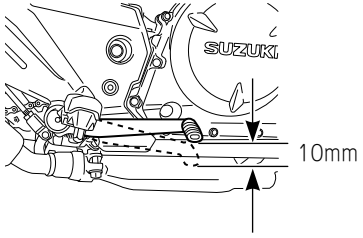
ブレーキパッド交換後、ブレーキレバーを、正規のタッチになるまで、数回ストロークしてください。

アドバイス

- **ブレーキパッドは左右同時に交換してください。**
- **新しいブレーキパッドは、きき具合が違います。慎重な運転を心がけてください。**
- **ブレーキパッドの交換は、スズキ販売店にご相談ください。**

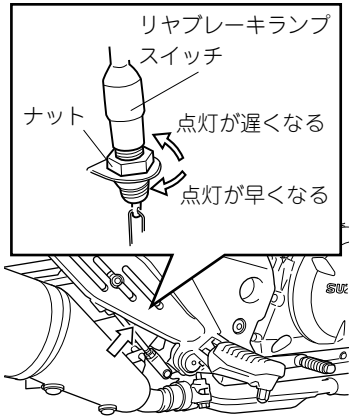
■ リヤブレーキランプスイッチの点検

リヤブレーキペダルを10mm程度踏み込んだときに、ブレーキランプが点灯を始めるか点検します。
点灯の開始が早い場合や遅い場合は、リヤブレーキランプスイッチを調整してください。



■ リヤブレーキランプスイッチの調整

リヤブレーキランプスイッチ本体が回らないように指で固定し、ナットを回して調整します。
ナットを右に回すとブレーキランプの点灯開始が早くなり、左に回すと遅くなります。



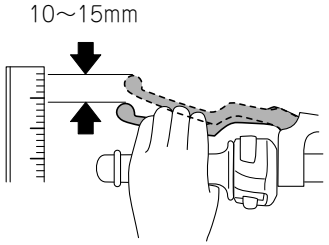
注 記

調整をするときにリヤブレーキランプスイッチ本体を回さないでください。配線の断線の原因となることがあります。

クラッチ

■ クラッチレバーの遊びの点検

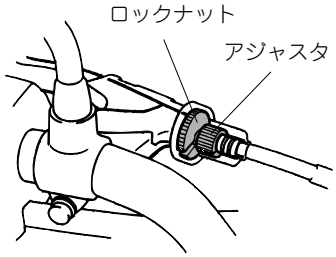
軽い抵抗を感じるまでクラッチレバーを引き、レバー先端の遊びの量が規定の範囲内にあるかをスケールなどで点検します。規定の範囲から外れている場合は調整してください。



■ クラッチレバーの遊びの調整

＜クラッチレバー部（微調整）＞

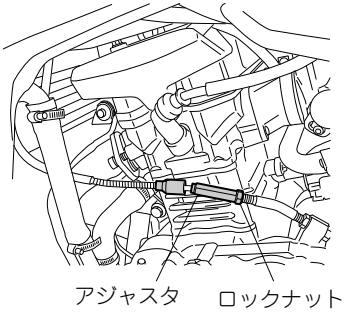
ゴムカバーをめくります。ロックナットをゆるめ、アジャスタを回し遊びを調整します。
アジャスタを右に回すと遊びが多く、左に回すと遊びが少なくなります。



クラッチ

＜エンジン部（主調整）＞

ロックナットをゆるめ、アジャスタを回し遊びを調整します。
アジャスタを右に回すと遊びが多く、左に回すと遊びが少なくなります。



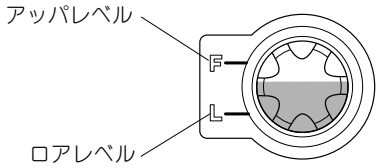
アドバイス

- **調整後、クラッチレバーの遊びが規定の範囲内にあるか確認してください。**
- **調整後、エンジンをかけチェンジ操作がスムーズであるか、エンストまたは飛び出しなどがないか確認してください。**

エンジンオイル

■ エンジンオイル量の点検

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 車体を垂直にして、3分後オイルが点検窓のアッパレベルとロアレベルの間にあるかを点検します。
   オイル量がロアレベルに近い場合は、アッパレベルまで補給します。

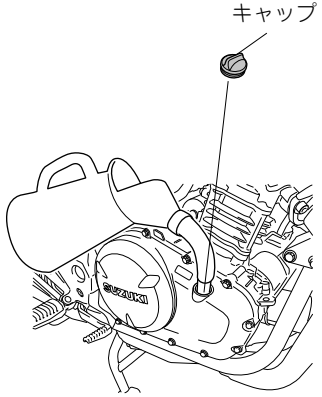


⚠注 意

エンジン回転中および停止後しばらくの間は、マフラ、エンジンなどが熱くなっています。このとき触れるとやけどを負うおそれがあります。

■ エンジンオイルの補給

1. 平坦地でエンジンを3分間アイドリング運転し、エンジンを停止します。
2. 3分後、オイル注入口キャップを外します。
3. 車体を垂直にして、アッパレベルまでオイルを注入します。
4. キャップを確実に取り付けます。



推奨オイル：
スズキ純正オイル

規格 / オイル	SAE	API
エクスターオイル TYPE 04 MA	10W-40	SJ
エクスターオイル スーパーデラックス	10W-40	SE

推奨オイルが入手できない場合は、次の規格を満足するエンジンオイルを使用してください。

SAE	API	JASO
10W-40	SG以上	MA

エンジンオイル交換時期：
初回1か月または1,000km
以降6,000kmまたは1年ごと
オイルフィルタ交換時期：
初回1か月または1,000km
以降18,000kmごと

⚠警 告

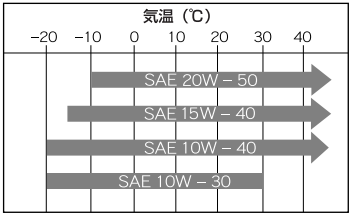
エンジンオイルを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。

注 記

- **摩擦低減剤を必要以上に多く含むエンジンオイルは使用しないでください。また摩擦を低減する添加物は加えないでください。**
  クラッチは、エンジンオイルに浸されています。摩擦低減剤を含むエンジンオイルはクラッチの滑りなどの原因となる場合があります。
- **銘柄やグレードの違うオイルを混用したり、低品質オイルを使用しないでください。変質して故障の原因となることがあります。**
- **オイル注入口からゴミなどが入らないようにしてください。**

アドバイス

- **SAE10W-40 のオイルが入手できない場合は、次の表を参考に使用環境に合うオイルを選んでください。**



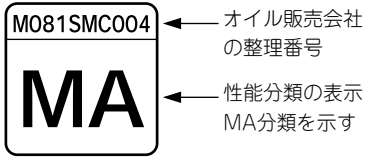
- **オイルをこぼしたときは、完全にふきとってください。**
- **オイルは規定量より多くても少なくても、エンジンに悪影響を与えます。**

エンジンオイル

アドバイス

JASO規格について

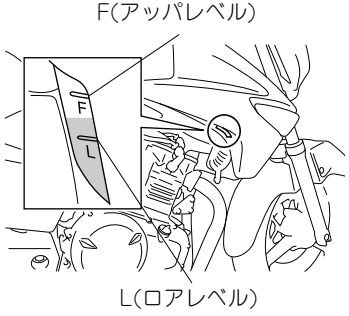
- **JASO T903 は、4 サイクル二輪車のエンジンオイルを選ぶ際の指針となる規格です。**
- **二輪車は四輪車と異なりエンジンオイルがクラッチやトランスミッションも潤滑しています。JASO T903 はこれらクラッチやトランスミッションが要求するオイル性能について規定しています。**
- **MA と MB の分類があり、本規格に適合するエンジンオイルの容器には、次の表示があります。**



冷却水

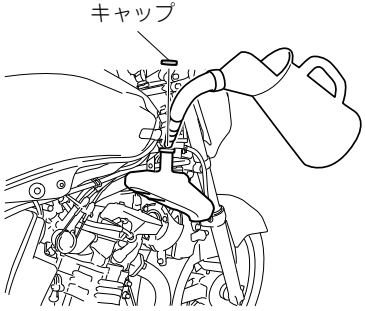
■ 冷却水の量の点検

1. 平坦地でメインスタンドを立てます。
2. 冷却水がリザーバタンクの F(アッパレベル)とL(ロアレベル)の間にあるかを点検します。冷却水が L(ロアレベル)に近い場合は、F(アッパレベル)まで補給します。



■ 冷却水の補給

1. 右側のフューエルタンクカバーを取り外します。
   51ページの「フューエルタンクカバー」参照
2. リザーバタンクキャップを外します。
3. アッパレベルまで冷却水を補給します。
   指定液： スズキクーラント



⚠警 告

冷却水は、人体に有害です。冷却水を取り扱うときは、十分注意してください。

- 冷却水を補給するときは、換気のよい場所で行ってください。
- 飲んだ場合は、無理に吐かずに、すみやかに医師の診察を受けてください。
- 目に入った場合は、きれいな流水で十分に洗ったあと、医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、水と石鹸を使って洗い落としてください。

⚠警 告

- クーラントを取り扱う前に、容器に記載されている注意文をよく読んでください。
- 冷却水の補給はリザーバタンクのキャップから行い、ラジエータキャップは外さないでください。
- エンジンが熱いときラジエータキャップを外すと、冷却水が噴き出し、やけどを負うおそれがあります。

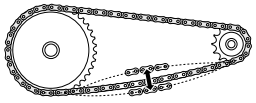
アドバイス

- 冷却水の減りが著しいときはラジエータ本体、ホースなどからの漏れが考えられます。スズキ販売店で点検を受けてください。
- リザーバタンクが空の場合は、ラジエータ内の冷却水も不足している可能性があります。
- 補給する水は水道水を使用し、井戸水や天然水は使用しないでください。
- 冷却水の交換はスズキ販売店にご相談ください。
- 冷却水交換時はスズキクーラントと水道水を1：1で混合したものを使用してください。

ドライブチェーン

■ ゆるみの点検

前後スプロケットの中央を手で上下に動かし、チェーンのゆるみが規定の範囲内にあるかを点検します。
規定の範囲を超えている場合は、調整してください。



また車をゆっくり動かしチェーンが滑らかに回転するかを点検します。
回転が滑らかでない場合は、清掃し、給油してください。

⚠警 告

ドライブチェーンの点検、調整、清掃、給油は、エンジンを止めてから行なってください。

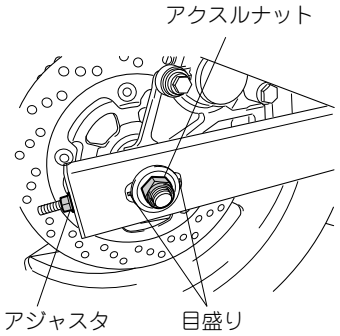
アドバイス

ドライブチェーンの調整などは、スズキ販売店にご相談ください。

ドライブチェーン

■ ゆるみの調整

1. アクスルナットをゆるめます。
2. アジャスタを左右少しずつ回します。
3. トルクレンチを使用して、アクスルナットを規定トルクで締め付けます。
   規定トルク：65N・m



アドバイス
- **アクスルナットの締め付けは、トルクレンチを使用してください。トルクレンチが無い場合は、スズキ販売店へご相談ください。**
- **左右同じ目盛りに合わせてください。**

■ 清掃、給油

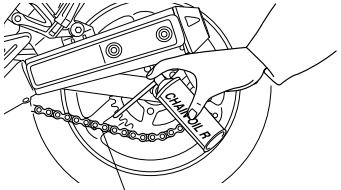
1. ドライブチェーンにほこりや泥などが付着しているときは汚れを取り除きます。
   シールリングを傷付けないように注意してください。
2. 洗浄はシールチェーン専用クリーナまたは、水や中性洗剤などで行います。
   推奨クリーナ：スズキチェーンクリーナ

注記
不適切な清掃をすると、ドライブチェーンのシールリングに傷がついたりドライブチェーンが壊れたりすることがあります。
- **シンナー、灯油、ガソリン等の揮発性溶剤を使用しないでください。**
- **スチーム洗車機を使用しないでください。**
- **ワイヤーブラシを使用しないでください。**

3. 柔らかいブラシを使用します。ブラシは柔らかくてもシールを痛める場合があるため、シールリングを傷付けないよう注意してください。
4. 水や洗浄剤を綺麗に拭き取ります。
5. 給油は２輪シールチェーン専用オイルもしくは粘度の高いオイル（#80～90）を使用します。
   推奨オイル：スズキチェーンオイルR

注記
ドライブチェーンオイルの中にシールリングに損傷を与える溶剤や添加物が含まれている場合があります。
シールリング付きドライブチェーン専用オイルを使用してください。

6. オイルがチェーン各部によく行きわたるように、チェーンの手前と奥の両側に給油します。
7. 全周に給油した後、外側の余分なチェーンオイルを乾いたウェスで拭き取ります。



ドライブチェーン

▲注 意

チェーンは、ゴムのシールを使用しているのでスチーム洗浄は行わないでください。また溶剤入り潤滑油は、チェーンの寿命を縮めるものがあるので使用しないでください。

アドバイス

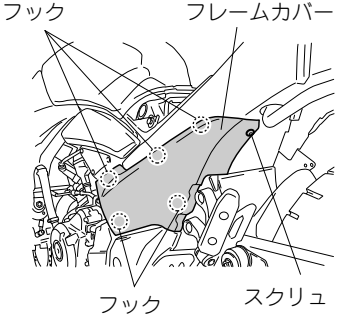
オイルを給油し過ぎると、飛び散って衣服や車を汚します。給油し過ぎないようにしてください。

ヒューズ

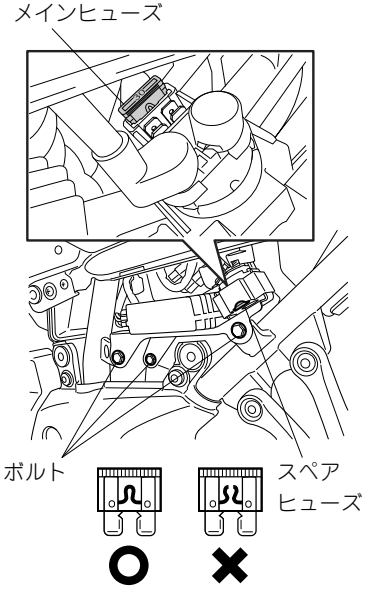
■ ヒューズの点検

<メインヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. スクリュを外し左側のフレームカバーを外します。



3. ボルトを外しメインリレーカプラを取り外します。
4. ヒューズを引き出し点検します。切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。スペアヒューズはメインリレーホルダーの中にあります。

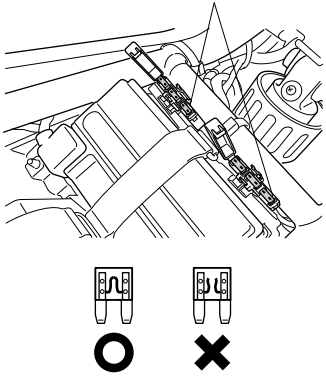


ヒューズ

<ヒューズ>

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを外します。
3. ヒューズカバーを外します。
4. ヒューズを引き出し、点検します。
   切れている場合は原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

スペア
ヒューズ



⚠警 告

指定容量を超えるヒューズは、配線の過熱、焼損の原因となるので使用しないでください。

針金、銀紙などを使用すると、配線が焼損したり火災が発生したりする原因となります。

⚠注 意

- **電装品類（ランプ、計器など）を取り付ける時はスズキ純正用品をご使用ください。それ以外の物を使用するとヒューズが切れたり、バッテリあがりを起こすことがあります。**
- **洗車時、ヒューズボックスのまわりに水を強く吹きつけることは避けてください。**

アドバイス

ヒューズが切れたときは原因を調べ、直してから指定アンペアのスペアヒューズと交換します。原因がわからないときは、スズキ販売店で点検を受けてください。

バッテリ

■ バッテリの点検

この車は密閉式のメンテナンスフリーバッテリを使用しています。バッテリ液の点検、補給は必要ありません。
ターミナル部に汚れや腐食がある場合は、取り外して清掃してください。

⚠警 告

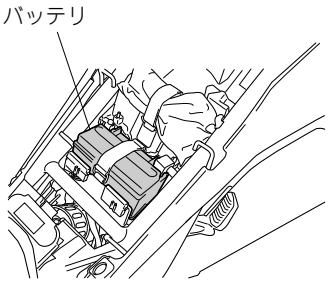
- **バッテリを取り扱う前に、バッテリに貼付されている注意文をよく読んでください。**
- **バッテリには、希硫酸が含まれています。希硫酸が身体に付着すると重い火傷を負うおそれがあります。**
- **バッテリは引火性ガスを発生します。火気を近づけないでください。**
- **バッテリは、子供の手の届くところに置かないでください。**
- **乾いた布でバッテリをふかないでください。静電気が発生して引火するおそれがあります。**

＜バッテリ液が付着した場合は・・・＞

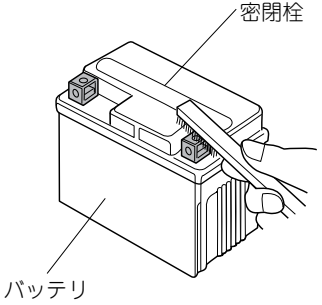
- 目に入った場合は、すぐに多量の水で15分以上洗い医師の診察を受けてください。
- 皮膚や衣服に付いた場合は、衣服を脱ぎ多量の水で洗い流してください。
- 万一飲み込んだ場合は、すぐに多量の水を飲んで医師の診察を受けてください。

■ バッテリターミナル部の清掃

1. メインスイッチを**OFF**にします。
2. シートを外します。
3. ㊀側バッテリコード、㊉側バッテリコードの順に外し、バッテリを取り出します。



4. ターミナル部に白い粉が付いている時は、ぬるま湯を注いで拭きます。
   腐食が著しい時は、ワイヤブラシかサンドペーパで磨いてください。
5. 清掃後、ターミナル部にグリスを薄く塗り、バッテリを取り付けます。



バッテリ

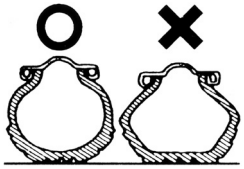
アドバイス

- **バッテリコードを外す時は、必ずメインスイッチを OFF にし、⊖側を先に外してください。取り付ける時は⊕側を先に取り付けます。**
- **ターミナル部にゆるみが生じないように締め付け、⊕側ターミナルカバーを確実に取り付けてください。**
- **密閉栓は取り外さないでください。**
- **バッテリを交換する時は、同一型式のメンテナンスフリーバッテリと交換してください。**
- **長期間使用しない場合は、3 か月ごとに補充電してください。詳細は P.57 のアドバイスをご覧ください。**

タイヤ

■ 空気圧の点検

タイヤ接地部のたわみ状態を見て、空気圧が不足していないかを点検します。
たわみ状態が異常な場合は、タイヤが冷えているときにタイヤゲージを使用して空気圧を点検し、適切な空気圧にしてください。



タイヤ空気圧

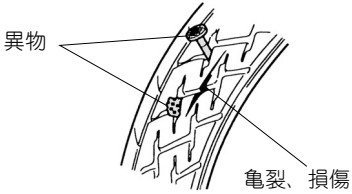
1名乗車時	前	250kPa
	後	250kPa
2名乗車時	前	250kPa
	後	250kPa

⚠警 告

不適正な空気圧での使用や、すり減ったタイヤの使用は、転倒事故などの原因となります。適正な空気圧を守り、すり減ったなら交換してください。

■ 亀裂、損傷、異物の点検

タイヤの接地面および側面の全周に、亀裂や損傷が無いかを確認します。
また、釘や石などの異物が刺さったり、かみ込んだりしていないかを確認します。



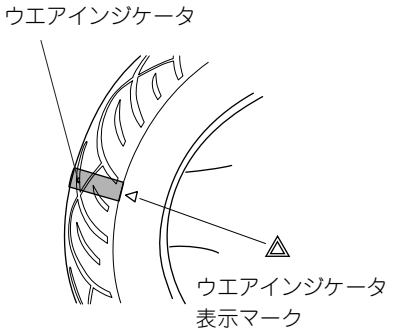
■ 異常摩耗の点検

タイヤの接地面が、異常に摩耗していないかを確認します。異常に摩耗している場合は、スズキ販売店へご相談ください。



■ 溝の深さの点検

ウエアインジケータがあらわれていないかを点検します。
ウエアインジケータがあらわれたときは、タイヤを交換してください。



アドバイス

コーナリングや操縦安定性などの安全走行のために、早めのタイヤ交換をおすすめします。溝の深さは、前1.6mm、後2.0mm以上が望ましいです。

■ タイヤの交換

タイヤを交換する場合は、必ず指定タイヤを使用してください。

指定タイヤ

前	**サイズ**	110/80－17M/C 57H
	種類	IRC RX-01F/D/TL
後	**サイズ**	140/70－17M/C 66H
	種類	IRC RX－01R/TL

⚠警 告

指定外のタイヤの使用は、安全走行に悪影響を与える場合があります。必ず指定タイヤを取り付けてください。

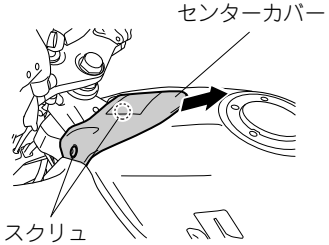
アドバイス

新しいタイヤはスリップしやすいので、車を深く倒さないでください。倒す角度は徐々に大きくしてタイヤをならしてください。

フューエルタンクカバー

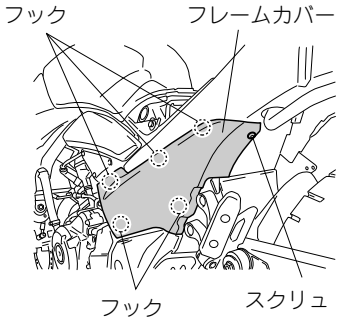
■ フューエルタンクカバーの取り外し

1. シートを外します。
2. スクリュを外しセンターカバーを取り外します。

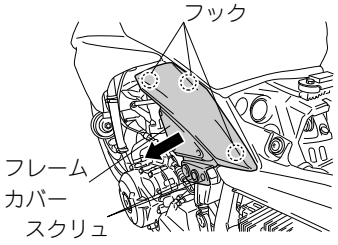


フューエルタンクカバー

3. スクリュを外し左右のフレームカバーを取り外します。

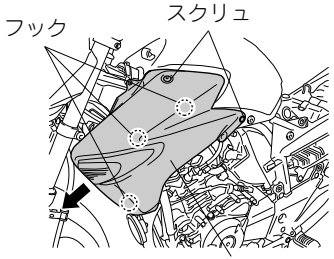


4. スクリュを外し左右のフロントフレームカバーを取り外します。

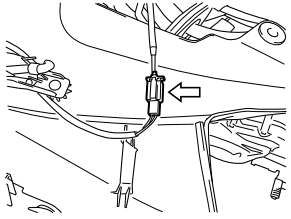


(GSR250)

5. スクリュを外し左右のフューエルタンクカバーを取り外します。

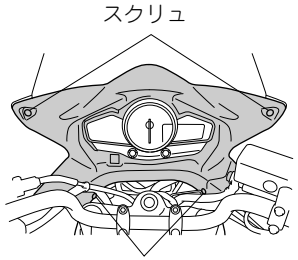


6. フロントターンシグナルランプのコネクタを外します。

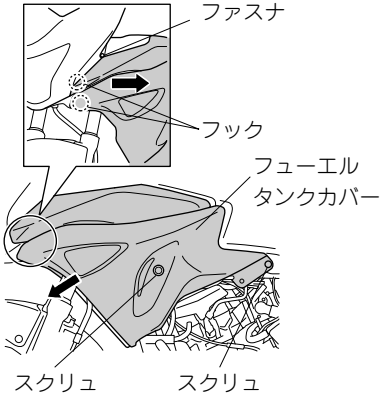


(GSR250S)

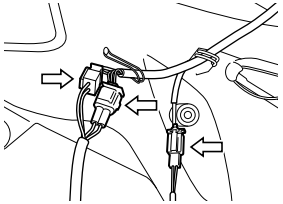
5. スクリューおよびファスナを外しカバーを取り外します。



6. スクリューおよびファスナを外し、前部のフックを外してから左右のフューエルタンクカバーを前方へスライドさせて取り外します。

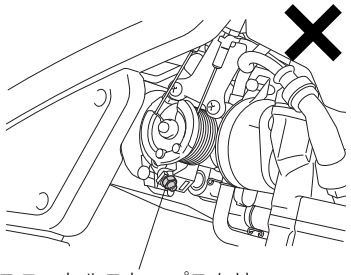


7. フロントターンシグナルランプ、ヘッドランプおよびメータのコネクタを外します。



スロットルストップスクリュ

スロットルストップスクリュは工場出荷時に、適正なアイドリング回転速度になるように設定されています。



注 記

- **スロットルストップスクリュを調整しないでください。適正なアイドリング回転速度が保てなくなります。**
- **アイドリング回転速度の調整は、スズキ販売店にご相談ください。**

エアクリーナ

■ エアクリーナエレメントの点検・清掃・交換

1年毎に点検してください。ほこりが多い場所を走行する機会が多い場合は、6か月毎に点検してください。

アドバイス

エアクリーナエレメントの点検・清掃・交換は、スズキ販売店へご相談ください。

洗車

お車を長持ちさせるため常に清掃をしましょう。泥道やホコリの多いところを走行した後は、すみずみまで洗車しましょう。異常などが早く発見でき、故障予防にもなります。海水に含まれる塩分や融雪剤は金属を錆びやすくします。海岸付近や融雪剤を使用した道路を走行した後は、必ず洗車してください。

1. 冷水をかけながら、スポンジまたはやわらかい布で汚れをおとします。
2. ひどい汚れは、中性洗剤を使用して水で洗い流します。
3. 乾いたやわらかい布で、水分をふき取ります。



注 記

- 洗車はエンジンが冷えているときに行ってください。
- 高圧洗車機やスチーム洗車機は使用しないでください。可動部や電装部品の作動不良や故障の原因となる事があります。
- 洗車時、マフラ、エアクリーナや電装品に水が入らないよう注意してください。水が入ると始動不良やサビ発生の原因となります。
- 洗車後はブレーキのきき具合が悪くなる場合があります。
  この場合は、前後の車に十分注意して低速で走行しながら、ききが回復するまでブレーキを軽く作動させてください。

アドバイス

下記の場所には水を噴射したり流したりしないでください。

- メインスイッチ
- スパークプラグ
- フューエルタンクキャップ
- フューエルインジェクションシステム
- ブレーキマスターシリンダ
- スロットルケーブルのブーツ

アドバイス

- 洗車後や雨天走行後にヘッドライトのレンズが曇ることがあります。この場合は、ヘッドライトを点灯することで曇りは徐々に消えます。バッテリ上がりを防ぐために、エンジンを掛けながらヘッドライトを点灯させてください。
- 海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに冷水で水洗いをして乾いた布で水分を拭き取ってください。
  温水で洗うと塩の腐食が進行するので、必ず冷水で洗ってください。

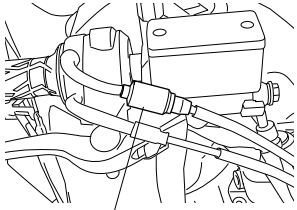
つや消し塗装

つや消し塗装の車両は、次の注意事項をお守りください。

- コンパウンド入りワックスなどで、塗装面や樹脂部品を強く磨くと色むらが生じる場合があります。
- 固形ワックスは、ふき取りが困難になることがあります。
- 使用中の摩擦や表面を擦り過ぎたり強く磨くと、つや消し表面が変化することがあります。

スロットルケーブルブーツ

スロットルケーブルには、ブーツが取り付けられています。ブーツが確実に取り付けられていることを確認してください。洗車時には、ブーツに直接水をかけないようにしてください。ブーツが汚れている場合は、水で濡らした布でふき取ってください。



ブーツ

フェアリング

フェアリング、スクリーンは傷つきやすいので中性洗剤または石けん水で洗った後、水洗いし柔らかい布でふいてください。

⚠警 告

フェアリングとハンドルの間に物を置かないでください。ハンドル操作に悪影響を与えます。

注 記

ブレーキ液、ガソリン、ベンゼンなどの化学物質がフェアリング、スクリーン、ヘッドライトなどのプラスチック部品にかかると亀裂などが発生する場合があります。

アルミホイール

アルミホイールは、塩分などの汚れを嫌います。アルミホイールの美しさを保つため、定期的に（週に一度くらい）清掃しましょう。

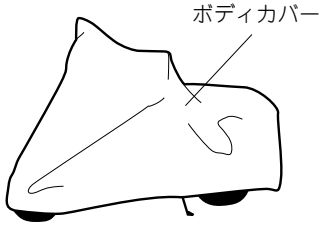
1. 中性洗剤をスポンジに含ませて、汚れを落とします。
2. 十分に水洗いをして、乾いた布で水分を拭き取ります。

アドバイス

- **アルミホイールは、傷がつきやすいため、みがき粉、硬いブラシや金属タワシなどの硬いもので擦ったり、当てたりしないでください。**
- **海岸や凍結防止剤をまいた道路などを走行した後は、直ちに水洗いをして乾いた布で水分を拭き取ってください。**

保管のしかた

できるだけご自宅の敷地内に保管し、屋外の場合は、ボディカバーをかけるようにしてください。



アドバイス

ボディカバーは、エンジンやマフラが冷えてからかけてください。

アドバイス

長期間乗らない場合は、次の事項をお守りください。

- **保管前に各部のワックスがけを行ってください。サビを防ぐ効果があります。**
- **バッテリは、自己放電と電気漏れを少なくするため、車から外し完全補充電して風通しのよい暗い場所に保存してください。車に積んだまま保存する場合は、⊖ターミナルを外してください。**

※補充電については、スズキ販売店にご相談ください。

環境を保護するために

将来、車両を廃棄する場合や使用済みバッテリ、エンジンオイルなどを廃棄する場合は、地球環境を守るため、むやみに捨てないでください。お車を廃棄する場合はお近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。

◆ 廃棄二輪取扱店とは

廃棄二輪取扱店とは（社）全国軽自動車協会連合会の加盟販売店で廃棄二輪取扱店として登録されている、廃棄二輪車を適正処理するための窓口です。
廃棄二輪取扱店には「廃棄二輪取扱店の証」が表示されています。



廃棄二輪取扱店の証

◆ 二輪車リサイクルマークとリサイクル料金

この車には二輪車リサイクルマークが貼り付けられています。二輪車リサイクルマークが貼り付けられている二輪車は、適正な処理を行い再資源化するための、リサイクル費用がメーカー希望小売価格および車両本体価格に含まれています。お車を廃棄する場合には、リサイクル料金はいただきません。ただしお車の運搬、収集費用はお客様のご負担となります。運搬、収集費用につきましては、お近くの「廃棄二輪取扱店」にご相談ください。



◆ 二輪車リサイクルマークの取扱い

お車を廃棄する場合には、二輪車リサイクルマークが必要となります。マークは車体からはがさないでください。紛失、破損による再発行および部品販売の取扱いはありません。
リサイクルマーク対象車両かどうか不明の場合は、下記のホームページおよびコールセンターでご確認ください。

◆ 廃棄二輪車に関するお問合せについて

廃棄二輪車に関するお問合せは、お近くの廃棄二輪取扱店または下記までお問合せください。
（財）自動車リサイクル促進センター
ホームページ：http://www.jarc.or.jp/

主要諸元

項目		諸元	
		GSR250	GSR250S
型式		JBK-GJ55D	
長さ		2,145mm	
幅		760mm	
高さ		1,075mm	1,305mm
軸距		1,430mm	
最低地上高		165mm	
車両重量		183kg	188kg
乗車定員		2人	
タイヤサイズ	前	110/80－17M/C 57H	
	後	140/70－17M/C 66H	
最小回転半径		2.5m	
エンジン形式		4サイクル・2気筒	
冷却方式		水冷	
燃料供給方式		フューエルインジェクション	
総排気量		248cm^3	
内径×行程		53.5×55.2mm	
圧縮比		11.5	
アイドリング回転速度		1,400rpm	
最高出力		18kW/8,500rpm	
最大トルク		22N･m/6,500rpm	

項目		諸元
クラッチ形式		湿式多板・コイルスプリング式
トランスミッション		常時噛合式6段リターン
減速比	1次	3.238
	2次	3.285
変速比	1速	2.416
	2速	1.529
	3速	1.181
	4速	1.043
	5速	0.909
	6速	0.807
キャスタ		26° 00’
トレール		105mm
ブレーキ形式	前	シングルディスク
	後	シングルディスク
フューエルタンク容量		13L
点火方式		フルトランジスタ式・バッテリ点火
点火時期		BTDC5° /1,400rpm

サービスデータ

項　　目	調　　整　　値
クラッチレバーの遊び	10～15mm
ドライブチェーンのゆるみ	20～30mm

タイヤ空気圧	1人乗車時	前	250kPa
		後	250kPa
	2人乗車時	前	250kPa
		後	250kPa

エンジンオイル量	オイル交換時	2.1L
	オイルフィルタ交換時	2.4L
	全　容　量	2.4L

スパークプラグ	種　類	NGK	CR7E
		DENSO	U22ESR-N
	ギャップ		0.7～0.8mm

バッテリ	種　　類	YTX9-BS
	容　　量	12V—8Ah

ランプ	ヘッドランプ　H/L	12V 60/55W
	ポジションランプ	12V 5W
	ストップ／テール	12V 21/5W
	ライセンスランプ	12V 5W
	ターンシグナル	12V 10W

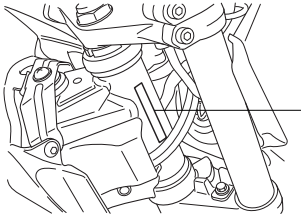
ヒューズ	10A　15A　30A

車台番号

アフターサービスなどを的確に行うため、お車の車台番号を記入しておいてください。

機　　種	GSR250/S
車台番号	LC6GJ55D001

車台番号はフレームヘッドパイプ右側に打刻してあります。



お車やサービスなどについてのご相談、ご意見がございましたら、お買いあげのスズキ販売店またはメンテナンスノート巻末に記載されている、お近くのスズキ二輪代理店にお申しつけください。

お客様のご相談に対して的確な判断と迅速な処理をするために次の事項を必ずご確認のうえ、ご相談ください。

① 機種、型式、車台番号
② 購入年月日　④ 相談事項
③ 走行距離　⑤ ご住所、お名前、電話番号

お買いあげの販売店

［TEL］

スズキ株式会社の窓口は…
〒432-8611　浜松市南区高塚町300

スズキ株式会社

お客様相談室
◆ **フリーダイヤル** 0120-402253
受付時間　9:00～12:00　13:00～17:00

弊社お客様相談室におけるお客様の個人情報の取扱いにつきましては、スズキ株式会社のホームページに掲載していますのでご覧ください。
(http://www.suzuki.co.jp)

こんなときは、スズキ販売店に持ち込む前に次のことを調べてみてください。

エンジンがかからない
- かけかたは取扱説明書どおりですか？
- ガソリンは入っていますか？

ブレーキがきかない
- ディスクブレーキはブレーキパッドの摩耗、ドラムブレーキはブレーキレバーの遊びを点検してください。

ランプ類が点灯しない
- ヒューズが切れていないかを点検してください。

再生紙、植物油インクを使用しています。